

古訓
醫傳

風寒熱病方緯篇

宇津木益夫 著

五

十武
A03
十



門 503
5



古訓醫傳卷十八

風寒熱病方緯篇第五

尾張

宇津木益夫述

溫知社
圖書記

○辨消渴小便利淋病脉證并治法第十四

今世上ニテ淋病ト称スル者ニ、二種ノ差別アリ、彼ノ小便
ニ膿ノ出ル者ハ、癰毒ヨリ内ニ瘡ヲ発シ、膿潰スルヨリ来
ル者ニシテ、淋病トハ異ナリ、ソレハ腸癰藏毒ノ内潰シテ
ヨリ、発スル者ナレバ、臍ノ腸癰部類ノ証ナリ、今コノ篇ニ
奉ル所ノ淋病ハ、至テ渴強ク、一舛飲テモ、小便ハ一合モ出
ズ、淋瀝不通ノ証ニシテ、膿血ノナキ者ナリ、渴ノ甚シク、小
便ノ至テ少キヲ、名ケテ消渴ト云、コレ飲ム所ノ湯水、中ニ

古訓醫傳

卷十八

消渴小便利淋篇

一

見川千載

テ消シテ小便ニ通セズ、マスキ渴スルヲ云ナリ、彼ノ癰毒
 ノ内ニ潰エテ膿ヲ下ス証ハ、余ガ家ニテハ内疳瘡ト云、コ
 レ外ニ発スル下疳瘡ノ内ニ発シテ膿ヲ小便へ泻下スル
 証ナリ、故ニ瘡膿陰莖中ニ経過スルニ由テ痛ハアレ、小
 便ハタツプリト通ズル証ニシテ淋ノ字ノ義ニ合セズ、夕
 トヒ痛ズ、凡膿ノアル者ハ、皆内疳瘡ノ類ナリ、サテ又婦人
 ノ淋病ヲ消渴ト云テ、男子ト称ヲ別ツコトハ、皆人ノヨク知
 ル所ナリ、男子婦人、コノ淋病ニ限リテ、名ヲ別ニ称スルコ
 ハナキ筈ナリ、コレ按ズルニ婦人ニ對シテ淋病ト云へバ、
 下部産門ノ病故ニ、耻ル所ノアルヲ察シテ、渴人アリテ小
 便ノ不通ナルニ、マキラシテ、消渴ト称セシヲ、後ニハ婦人

ノ淋病ハ消渴ト云名ニ極リテ、淋病ト云モ、消渴ト云モ、下
 部ノ陰門陰莖ニ病ノアル名ニ、人々合点シタリ、コレ何ノ
 役ニ立又名ヲ、婦人男子ニ差別シタル者ナリ、コノ篇ニ消
 渴、小便利淋ヲ一ツニシタルハ、右ノ名ヲ辨明スル為ノミ
 ナラズ、消渴ハ、消渴ノ病状アリ、淋ハ、淋ノ病状アリテ、消渴
 ニモ虚実ノ別アリ、淋ニモ陰陽ノ辨アルコトヲ、コノ篇ニ辨
 明スルナレバ、奥ノ腸癰ノ篇ト合セ考テ、ソノ意ヲ會得ス
 ベシ、
 □ 趺陽脉浮而数、浮即為氣、數即消穀、而大便堅、氣盛則溲數、
 溲數則堅、堅數相搏、即為消渴、
 趺陽ハ、足ノ胛上ノ脉ニシテ、胃經ナレバ、即胃中ヲ候フ脉

ナルハ、追々説キ示シタリ、コレノミナラズ、手ノ左関ノ
 脉モ、胃中ヲ候フ部位ナリ、其部位ノ脉ノ浮而数ナルハ、胃
 気盛ニシテ、外へ張り出ス故ナリ、胃盛ナレバ、内ニ熱ヲ帯
 テ、熱ノ為ニ燥ク故ニ、頻リニ食物ヲ欲シテ、食シテモ食シ
 テモ、腹ノヘルハ、胃熱ノ勢ニテ、ヨク穀ヲ消スルナリ、其上
 ニ津液モ乾燥スル故ニ、大便堅シ、コレ浮而数ナル脉ニテ、
 胃気盛ニシテ熱ヲ生シ、ヨク穀ヲ消シテ、大便堅ヲ知ルナ
 リ、胃気盛ナレバ、外ニ張り出シ強ク、水気燥テ下降シ難キ
 故ニ、小便モ一度ニ夕ツフリト通セズ、頻数ニシテ、ノコル
 様ニ思ヒ上リ、故ニ気盛則溲数ト云リ、コノ気ノ字ハ、即チ上
 ノ句ノ、浮即為気ノ氣ヲ受テ、胃気ヲ云ナリ、胃気盛ニシテ、

溲数ナル者ハ、内ノ津液ノ燥ク者ニシテ、大便モ堅シ、大便
 堅ク、小便頻数相搏トキハ、内熱ニテ湯水ヲ好ミ、其湯水中
 ニテ消テ、小便ノ通利トナラズ、頻リニ渴シテ止ガル者ガ、
 消渴ナリ、故ニ堅数相搏、即為消渴ト云リ、コレ胃気盛ニシ
 テ、熱ヲ生シ、ソレヨリ穀ヲ消シテ、大便堅トナリ、小便頻数
 トナリ、其堅数相戦テヨリ、消渴ノ病ヲ生スト、示シタルナ
 リ、

口 跌陽脉数、胃中有熱、即消穀引食、大便必堅、小便即数、

コレ上ノ凡例ト同意ニシテ、夕、跌陽ノ脉ノ数ナルバカ
 リニテモ、胃中ニ熱アリテ、ヨク食物ヲ引テ、大便堅、小便数
 ノ証ヲナスナリ、已上二个条ノ凡例ハ、実証ノ消渴小便数

ノ者又、奉示シタルナリ、

□厥陰之為病、消渴、氣上撞心、心中疼熱、飢而不欲食、食則吐、下之不肯止、

コレ經篇厥陰篇ノ凡例ヲ、コ、ニ列子テ、虛狀ノ消渴ヲ示シタルナリ、委ク厥陰篇ニテ、説キ示シタレバ、再ビ贅セズ、併セ考フベシ、厥陰篇ニハ、食即吐、蛇下之利不止トアリテ、文字ハ少シク異ナレ、臣主意ニ於テハ同ジナリ、

○男子消渴、小便反多、以飲一斗、小便一斗、八味丸主之、コレヨリ本条ニシテ、上ノ条ノ虛分ノ消渴ヲ受テ、コノ消渴ヲ出セリ、サテコノ証ハ、常ノ消渴ニ反シテ、渴シテ飲ム所ノ湯水内ノ津液ノ助トナラズシテ、残ラズ小便ニ通ス

ル証ナリ、コレヲ病源候論ニハ、渴利ト名ケテ、常ノ消渴ニ別テリ、コレ血分不順ニシテ、陽氣ノビズ、故ニ血ト水ト和合セズ、血ハ滋潤ヲ失フテ、頻リニ渴シテ、湯水ヲ飲ムナリ、其血ニ和合スルヤウニ、水ヲ行ラス所ノ陽氣乏シキ故ニ、此ノ如クニ飲ム所ノ水、残ラズ小便ニ通ジテ、内ノ滋潤ニハナラサルナリ、コレニ由テ内ノ血ヲ和シ、陽ヲノバン、水ノ會通シテ、血ニ滋潤ヲツケルハ、八味丸ノ主ル所ナレバ、八味丸主之ト云リ、

○脉浮、小便不利、微熱消渴者、五苓散主之、コノ條ハ太陽上篇ヲ節録シテ、消渴ヲコ、ニ奉タルナリ、太陽上篇ノ五苓散ノ条ニ委シ、併セ考フベシ、

○渴欲飲水、水入則吐者、名曰水逆、五苓散主之、

コノ条モ亦太陽上篇ニアリ、往テ見ルベシ、夕、渴ノ証ヲ

コ、ニ出シテ、示シタルバカリナリ、

○渴欲飲水不止者、文蛤散主之、

コノ条モ太陽下篇ノ、結胸ノ部ノ条ニテ、五苓散ハ胃中ニ

預リ、文蛤散ハ胸中ニ預ルヲ示シタリ、併セ考フベシ、

○吐後、渴欲得水、而貪飲者、文蛤湯主之、兼主微風、脈緊、頭痛、

コノ条、坊本ニハ奥ノ嘔吐、噦下利病篇ニアリ、然レ凡トク

ト考ルニ、今吐ハナク、吐シテ後ニ消渴ノ病状ト同クナリ

テ、因ノ異ナル証ナレバ、前条ノ文蛤散ニ序テ、コ、ニ移

スナリ、諺ム者ヨク、意ヲ致スベシ、サテ始メ嘔吐シテ、津

液ヲ吐出シタルヨリ、内燥渴シテ渴ヲ棄シ、水ヲ得ント欲

シテ、イカ程飲デモ、飽キ足ラザル証ナリ、故ニ欲得水而貪

飲ト云リ、コノ藥方、分量ハ異ナリトイヘ、凡、大青竜湯ノ桂

枝ヲ去テ、文蛤ヲ加エタル方ナレバ、吐ニツレテ、内ノ津液

水氣、外ニ迫リ出テ、内ヘメグラズ、内乾燥シテ、飲デモ飲テ

モ、津液ノ助ヲナサズシテ、上攻外迫スル故ニ、貪飲ト云リ、

兼主微風、脈緊、頭痛トアルハ、コノ証ハ、外邪ヨリ犯スヲナ

クシテ、内ヨリ迫リ、内ノ水氣、外ニマハリ、津液ノ枯涸スル

ヨリ、来ル証ナレバ、外邪ニテ動搖ストイヘ、凡、至テ輕キ証

ナガラ、内ヨリ攻迫強クシテ、表外マデ、水飲并ニ氣血共ニ、

推シ出シ、張り出ス証ニシテ、外輕ク内ノ重キ所ヲ、察スベ

シトナリ故ニ微風トハ外邪ノ動揺ハ微ニシテ輕キ意ナ
 リ、脈緊ハ内ヨリ迫ル勢ノ甚シキナリ故ニ自發ノ内ヨリ
 ノミ、來ル証ト同ク、頭痛スルナリ、緊脈頭痛ハ自發ノ劇証
 ニ似テ、微風ノ外邪ヨリ動シテ内ノ迫ル症ナルヲ示シ
 タルナリ、コレ渴而飲ヲ貪ルノミニアラス、内ヨリ強ク迫
 ル、脈緊頭痛ヲモ、兼テ主トシテ解スルト云フヲ示シタル
 ナリ、コノ藥ヲ服シテ汗出テ解スル者多シ、大青竜湯ノ桂
 枝ヲ去リタル方ニ、文蛤ヲ加エタルナレバ、別ニ發汗劑ニ
 ハアラザレ、凡、表外ノ迫リノ和スルニヨリテ汗出テ解ス
 ル者モアリト云ハ、先ナル日ナリ、
 ○渴欲飲水、口乾舌燥者、白虎加人參湯主之、

コレ陽明篇ノ二个条ヲ、コ、ニ出シテ、渴ノ部類ニ属スル
 者ヲ、舉ケ示スナリ、コノ条ハ、氣道陽証ノ渴、次ノ猪苓湯ハ、
 血分陰証ノ渴、コレ渴ニ、陰陽氣血ノ分ヲ示セリ、陽明篇ニ、
 汗下燒鍼ノ變ニテ、梔子豉湯、白虎加人參湯、猪苓湯、四逆湯
 ノ証ニ、變化シタルヲ委ク説リ、往テ看ルベシ、
 ○脈浮發熱、渴欲飲水、小便不利者、猪苓湯主之、
 前条ニ説クガ如ク、コノ二个条ハ、陽明篇ニ委ク説リ、故ニ
 復贅セズ、

口淋之為病、小便如粟狀、小腹弦急、痛引臍中、
 コノ条ハ、淋病ノ凡例ナリ、始ニモ説ク如ク、コノ淋病ハ、小
 便ノ淋瀝シテ、通利セザル者ナリ、内疝瘡ノ膿血ノアル者

トハ、差別アリ、其小便チヨボクト、零ノシタブル如クニシ
 ア、快通セザルヲ、如粟状ト云リ、其上ニ小腹引ハリテ、ツマ
 リタル様ニナリ、小便ノ仕舞口ニ、陰莖中ヨリ肛門ヘツリ
 付テ、腰ヘヒビキ、脐中マデモ、痛ガ引付ルヤウニナルナリ、
 コレ小水道不利シテ、小便ノ氣ノミ甚シク、其氣ノ迫ルニ
 付テ、小腹肛門脐中マデモ、響キ痛ムナリ、平生ニテモ、小水
 ヲ辛抱シテ居テ、後ニ頻リニ催シテ、小水場ニ臨ム時ハ、小
 腹鞭満シテ、一向ニ通セズ、強テキバル片ハ、マスキ小腹鞭
 ク牽急シテ、一滴モ出ズ、少シク小腹ヲ内ヘ引コム様ニス
 レバ、ソロク通ジカケル者ナリ、コレハ淋病ニハアラザレ
 氏、俄カニ淋ノ病状ヲ覺ユル者ナリ、コレニテ淋瀝シテ、小

便通セズ、小腹弦急シテ、痛ノ肛門小腹脐中マデ、引クヲ
 勘正知ルベシ、

○小便不利者、有水氣、其人若渴、栝蒴瞿麦丸主之、

コノ証ハ、渴利ノ八味丸ノ証ト、ヨク似テ、血分ノ衰ナク、陽
 氣ノ乏シキ所ヨリ、津液メグラスシテ、小便ノ淋瀝スル者
 ナリ、故ニ少シク腫氣ヲ帯ル者モアリ、大病後ニ、腹中ヒヤ
 クトシテ、小便ノ淋瀝スル者ハ、多クハコノ方ノ主ル所ナ
 リ、コレ内ニ滋潤ヲツケテ、陽氣ヲ行ラス様ニシテ、水氣ヲ
 通ズル薬ナリ、故ニ方後ニモ、以小便利、腹中温、為知ト云リ、
 コレ至テ、虚状ノ淋疾ナリ、瞿麦、和名カハラナデシコト云、
 花ハ至テ、小ク色モアシク、実ノ大ナルヲ以テ、薬用トス、花

壇ニ栽ルノ名ニ別チテ、カハラナテシコノ名アリ、自然生
ノ物尤モ宜シ、冬葵子ト同ク、小水ヲ通ズル薬ナリ、車前子
モ皆同ジ功能ナレ、氏、車前子、冬葵子ハ、血分ノ証ヲ兼子、瞿
麦子ハ、血分ヲ兼ズシテ、小便ヲ通ズル功アリ、其詳ナル
ハ、薬能辨ニアリ、

○小便不利、蒲灰散主之、滑石白魚散、茯苓戎鹽湯亦主之、
コノ条ハ、夕、小便ノ淋瀝ノミニテ、凡例ノ小便如粟状、小
腹弦急、痛引臍中ト云ク、カケテ見ルヘシ、コレ皆小便ノ淋
瀝スルヲ、ヨク通利スル方ナリ、其外、滑石甘艸ノ二味ヲ、益
元散ト名ケ、又六一散、氏名ケタル方アリテ、淋疾ニカ、レ
リ、少シク膿ヲ帯ヒタル証ニモ、小便快利スレバ、膿モ自ラ

和スルナリ、コノ痛ノ、肛門小腹臍中ニ引ク者ニ、余平生猪
苓湯ニ、藤州ノ夏枯艸ヲ、至テ大ニ加テ用ルニ、大ニ功アリ、
又蓋艸、和名コブナ艸ト云者ヲ用ヒシニ、大ニ妙ナリ、コノ
蓋艸ハ、漆物ニ用ル、カリヤスノ一種ナレバ、直ニカリヤス
ヲ一味、煎シテ用ヒテモ、大ニ功アリ、何レ小便不利ノ証ナ
レバ、小便サ工快利スレバ、治スル証ニシテ、毒ノ内伏シタ
ル、癰毒ノ、腸癰、内疝瘡ノ膿血ヲ、小便道ニ下ス者トハ、大ニ
輕疾ナリ、按ズルニ戎鹽ハ、青鹽ノ一ナリ、本艸備要ニ曰、出
西羌、不假煎練、方稜明瑩、色青者良ト云リ、又曰、甘酸而寒、入
腎經、助水藏、平血熱、治目痛赤澀、吐血溺血、堅骨、固齒、明目、烏
鬚、餘同食鹽トアリ、固齒スルニハ、擦牙良トアリ、

△附方、外臺茯苓沢瀉湯、治消渴脉絶、胃反吐食、又有小麦一升、

コノ条ハ、奥ノ嘔吐噉下利病篇ノ、茯苓沢瀉湯ノ細注ニ、外臺ヲ引テ出セリ、茯苓沢瀉湯ハ、胃反ニテ吐シタルニ回テ、渴而欲飲水ノ証ニシテ、胃反ハ主タレ、凡渴而欲飲水者ハ、コノ消渴ノ部類ナリ、然レ、凡彼ノ篇ノ胃反ヲ主トシテ、米ル証ナレバ、本条ハ彼篇ニアリ、コノ外臺ノ病状モ、胃反吐食トアレ、凡消渴ヲ主ニ奉ゲタレバ、コノ篇ニ出シテ、附録トナスナリ、其实ハコノ篇ニモ、二个条共ニ掲ゲ、彼ノ篇ニモ、二个条共ニ奉ルガ、両方ノ病状ニ涉ル者ヲ、示ス為ナレ、凡、両方ニ二个条ヅ、アリテハ、同シトテ贅スルナレバ、一

个条ツ、分ケテ、示シタルナリ、両篇ヲ併セテ、嘔吐ニ涉ルト、渴ニ涉ルトノ主客ヲ、ヨク々辨別スベシ、

△夏枯艸湯、治小便淋瀝不利、

コレ上ニ説タル如ク、コノ夏枯艸ハ、ウツボグサトテ、十二一重ト云和名ノ夏枯艸ト、同名異物ナリ、コレヲヨク辨別スベシ、コノ藤州ノ夏枯艸ハ、ヨク水気ヲサバキ、淋瀝ヲヤハラグル、至テ妙ナリ、一味煎ジテ用ユレバ、小便大ニ快利シテ、一日二日ノ内ニ、淋瀝治ス、又久々患ル者ハ、其主方ノ中へ、極大ニ加フレバ、皆治スルナリ、故ニ余常ニ男婦ヲ論セズ、消渴淋疾ノ者ニハ、猪苓湯ニ組入レ、五苓散ニ組入、桂枝桔梗湯、其外瘡毒瘰癧汁ノアル者ニハ、ソレクノ主方ノ

中へ組み入テ、水気ヲ通利ス、獨リ小便ノ淋瀝不利ノミニ
アラズ、鹿実ニヨリテ、大黄石羔類ニ組み合シ、八味丸或ハ
附子干姜ノ類ニモ、組み入ルコトアレバ、ヨク考テコノ功ヲ
知ルベシ、

己上消渴、小便利、淋病篇、通計十五个条、凡例、本条、附録等ニ
テ、ヨクコノ病状ヲ察セシムルヤウニ、示シタルナリ、何レ
コノ消渴、淋疾ハ、多ク湿熱ノアル者故ニ、臈ノ腸癰ノ篇ト、
ヨク併セ考テ、病人ノ多毒少毒ニテ、其輕重アリテ、淋トナ
リ、消渴トナリ、又ハ臈癰内瘡瘡トナルコトヲ、差別スベシ、

○辨水気病脉證并治法第十五

コノ篇ハ、水腫ノ病状ヲスベテ辨明セリ、前々ニアル脚気、
并ニ痰飲、肺脹等ノ病ニテ、浮腫ノアル者ト、混雜シ易キ病
状ナレバ、トクト心ヲ潜メテ診察スベシ、今世上ニテハ、何
病ヨリ来リテモ、腫氣ノアル者ハ、病家モ医者モ、脚氣ト云
名ニ片附テ、各ソノ腫氣ニ差別ノアルコトヲ知ズ、病家ハ素
人ノコト故、左モアルベキコトナレバ、医タル者、其辨明ナクシ
バ、何ヲ以テ治術ヲ施スコトヲ得ンヤ、トクト其病状ト、主客
トヲ考テ、各其目當ヲ付テ、病証ヲ混雜セヌヤウニ、心掛ク
ベキコト第一ナリ、サテコノ水気一病ニモ、五種ノ差別、其外
気分ノ水ト、血分ノ水ト、又宿疾ニテ水ヲ病ム者トアリ、緯

篇ノ中ニ於テ、コノ水気病篇ハ、ヨク掬ヒタル篇ナレバ、コ
ノ篇ヲ法則トシテ、餘ノ篇マデモ、コノ法則ヲ擴充シテ解
スベシ、コノ水気病一証ニモ、表裏内外、陰陽、虛実、気血ノ差
別等、備具シタレバ、外々ノ篇モ此ノ如クニ、具テ見ルヤウ
ニスベシ、

口師曰、病有風水、有皮水、有正水、有石水、有黄汗、風水、其脉自
浮、外證骨節疼痛、惡風、皮水、其脉亦浮、外證胛腫、按之没指、不
惡風、其腹如鼓、不渴、當發其汗、正水、其脉沈遲、外證自喘、石水
其脉自沈、外證腹滿、不喘、黄汗、其脉沈遲、身發熱、腦滿、四肢頭
面腫、久不愈、致癩膿、

コノ凡例ハ、水気ニ五種ノ目アルヲ示シタリ、痰飲ノ四

種ト同ジナリ、サテ風水ハ、水ノ動搖シテ、皮表ニアル証
ナリ、始ノ篇ニアル、風湿病トヨク似テ、表分ノ水ニシテ、表
ニ滯ル故ニ、脉ハ自ラ浮ニシテ、外証ハ内ヨリダンク表ニ
滯ル水ナレバ、骨節疼痛スルナリ、其上ニ皮表ノ気モツレ
テ和セズ、故ニ惡風スルナリ、自發ノ太陽病ニ似テ、水ノ主
トナル証ト同ジナリ、タゞ水ト氣トノ輕重ノミニテ、同
ク表証ナリ、彼ノ太陽自發ノ麻黄湯ノ証ト、ヨク似タレ、凡
氣道主トナラザレバ、頭痛發熱ハナクシテ、皮表ニテ水気
ノ凝リタル者ナリ、サテ皮水ハ、皮表ニ自ラ水ノタマル証
ニシテ、位ハ表ナレ、凡、風水ノ如ク、水ノ動搖シテ、皮表へ迫
ル勢ナクシテ、気ノ迫リヲ兼ザル故ニ、身体骨節俱ニ疼痛

ナク、夕、跗腫スル証ナリ、跗トハ、足ノ甲ヲ云、コレ足ノ甲
 ノムツクリト高キ形ニシテ、一身面目ノ皮表ニ、水行ラズ
 シテ滯ル故ニ、ムツクリト高ク腫ルナリ、コレモ表位ノ水
 ナレバ、脈モ亦浮ナリ、コノ皮水ハ、氣ノ變ヲ帶ビザル故ニ、
 水ヨドミテ動カズ、故ニ跗腫スルナリ、其跗腫ヲ按セバ、指
 ノ形ノ付ク者ナリ、按之没指トハ、指ニテ腫レタル所ヲ按
 スニ、指ガカクル、ヲ云、コレ外表ニ腫氣ノアルニモ、風水
 ト、皮水トノ差別ヲ見セタルナリ、コノ証ハ、氣分ノ動揺ナ
 キ故ニ、不惡風ナリ、一身共ニ胎腫スル故ニ、腹部モ胎腫ス
 ルヲ以テ、其腹如鼓ト云リ、コレ履モ任ニ胎腫シタル形状
 ナリ、サテ皮水モ、前ノ風水モ、皆表位ニシテ、裏ノ水ヲ推レ

出し、張り出シタル者ニアラス、裏ノ津液ノ皮表ニ浮シダ
 ル者ニアラザル故ニ、渴セザルナリ、若シコノ証ニ渴アラ
 バ、發汗ハアレ、故ニ不渴、當發其汗ト云リ、サテ正水トハ、
 水氣病ノ正面目ト云フニテ、裏ノ水ノ滯リテ、上迫スル証
 ナリ、風水皮水トテモ、元ヨリ水氣ノ變ナレバ、小便不利ノ
 者多シ、又裏水ニテモ、小便ノ不利ハ勿論、外証ニ腫氣ノア
 ル者ナリ、夕、コノ凡例ハ、五種ノ目當ヲ別ツ為ニ、コノ正
 水ノ裏ヨリ、上迫スル所ヲ示シテ、其脈ノ沈遲ナルニテ、裏
 ノ水ノ滯ル所ヲ見セ、其水ノ上迫スル所ヲ、自喘ニテ示シ
 タルナリ、サテ石水モ、同夕裏水ナレバ、内ニ凝結スル所強
 クシテ、外迫モ上攻モナク、夕、裏水堅ク凝結シテ、動カザ

ル故ニ、脈ハ自ラ沈ナリ、コノ脈ハ人々ノ宿ニヨリテ、沈緊
 モ、沈実モ、沈遲モアリ、水裏ニアツテ、動カザル故ニ、外証ハ
 腹滿スレ、凡、上迫ナキ故ニ、不喘ナリ、コレ前ノ正水ノ上迫
 シテ、自喘スル者ト、腹滿不喘トニテ、正水石水ヲ差別シタ
 ルナリ、サテ黄汗ハ、裏水ノ者故ニ、脈モ正水ト同ク、沈遲ナ
 リ、コノ証ハ、元來内ニ血熱ノアル者ガ、水気病ヲ得タル者
 故ニ、熱ト水気ト、一緒ニ變ヲ生ジテ、身發熱スルナリ、コノ
 身ノ字ニテ、表ノ發熱ニアラズ、身熱ノ肌表マデ、發スルヲ
 示シタルナリ、コレ水ト熱ト、内ヨリ上攻外迫スル勢アル
 故ニ、胸滿ヲナシ、又四肢頭面マデモ腫ルナリ、コレ上ノ四
 種トハ異ニシテ、表熱ヲ帯ビタル水腫ナリ、故ニ久不愈致

瘰癧ト云リ、右ノ如ク、毒熱水気ヲ帯ル故ニ、早ク其水気ヲ
 和スレバ、瘰癧ヲ致ス所ノ、毒熱モ和スベシ、久シク愈ザル
 ニ至リテハ、毒熱ダシク、水気ヲ引シメテ、何レ瘰癧ヲ生ズ
 ルナリ、然レ凡瘰癧ヲ生ジテ、反テ從來ノ血熱サバケテ、毒
 ノ尽ル者アリ、瘰癧トテ、必シモ恐ルベカラズ、已上五種ノ
 差別ヲ以テ、水気病ノ大目トナス、各皆水ヲ主トシテ、表裏
 気血ノ別アレバ、コノ五種ハ、忽ニ變化シテ、一人ニ五種ニ
 轉變スル者モアリ、二種三種ニ陟ル者モアリ、ダシク次ノ
 凡例ニテ、其委細ヲ考フベシ

口脈浮而洪、浮則為風、洪則為氣、風氣相搏、風強則為隱疹、身
 体為癢、々為泄風、久為痂癩、氣強則為水、難以俛仰、風氣相擊、

身体洪腫、此為風水、不惡風者、汗出則愈、惡風則虛、小便通利、上焦有寒、其口多涎、此為黃汗、

前条已ニ五種ノ水気ヲ差別シテ示セリ、コノ条モ亦五種ノ中ノ一二証ヲ論ジテ、變化ヲ示スナリ、サテ脈ノ浮ニシテ、洪ヲアラハスハ、風気相搏ノ中ニ、風ノ勝ツ者ト、氣ノ勝者トヲ辨別セリ、浮ハ風ニシテ、外邪ニテモ、一切外ノ事ニテモ、動搖スルヨリ来レリ、洪ハ其動搖ニツレテ、氣ノ迫ル者ナリ、風気両ラ相搏ツ片、風動強クシテ勝ツ片ハ、同ジ動搖ニテモ、血分ヲ動シ、皮一重内ニ、瘀血ヲ釀シテ、癩疹トテ、一身ニ痒癢ヲ生ズ、コレ兼テ内ニアル所ノ、瘀血ヲ動搖シテ、皮表ニ浮ブ故ニ、身体為癩ナリ、癩ヲナス片ハ、彼ノ癩疹

ノ皮内ニアル物、皮表ニアラハレテ、俗ニ云風ホロセトナル、疹ハホロセノコトナリ、故ニ癩為泄風ト云リ、コレ風動ニヨリテ、皮表ニ泄レテアラハル、故ニ、身体ニ疹ヲ生シ、随テ生シ、随テ乾クニツヒテ、日ヲ経レバ、痂ヲ結ビ、ムラクトシテ、斑点ヲ生ズ、故ニ久為癩癩ト云リ、コレ風ノ強クシテ、氣ノ弱キ方ヲ示シタルナリ、氣強キ方ハ、風ノ動搖ハアレ、凡、氣ノ勢ニテ、動搖ノ風ヲハリ返シ、水気ヲ皮表ニハリ出ス、故ニ一身共ニ腫レテ、俛仰マテナリガタシ、俛仰ノナリ難キハ、一身ハ勿論、胸腹共ニ水気滯リテ、重キ状ナリ、元ヨリ風搖ノ氣ヲハリ返ス勢強キ故ニ、両方相戦フ勢ニテ、身体洪腫スルナレバ、コレニモ亦風気相搏ト云、身体洪腫ト

云リ、コレ動搖ニヨリテ、釀ス所ノ水気ナレバ、此為風水ト云リ、不惡風者、汗出則愈ト、坊本ニハナケレ、凡例ニハ、風水ニ、惡風ノアルヲ云、カクナセリ、コレ始ノ凡例ニハ、風水ニ、惡風ノアルヲ云、皮水ニハ、反テ不惡風トアリ、コノ風水ニハ、不惡風者、汗出則愈ト云、少シ疑ヒノアル処ナリ、コレ始ノ条ノ風水ハ、脉浮バカリニテ、洪ナク、骨節疼痛シテ、表ノミノ水気ナリ、コノ証ハ、同ジ風水ナレ、凡例ニハ、氣ノ勢ノ強キヨリ起ル故ニ、不惡風ニ、洪腫スル証ナレバ、氣ノ勢ノ強キヨリ起ル故ニ、不惡風ナリ、コレ裏氣強ク、皮表マデ張リ滿テ、水腫ヲナセバナリ、裏氣強シトイヘ、凡例ニハ、皮表ノ水ヲ、汗ニトレバ治スルナリ、故ニ汗出則愈ト云リ、惡風則愈トハ、コノ証一旦ハ裏ノ氣ハ

リ出シテ、水気皮表ニハリ滿レ、凡例ニハ、引続ヒテハリ返ス勢ナク、又ルケタルヨリ、表氣ノ達セザル処、出来タルナリ、コレ水気アル者ノ惡風ハ、多クハ虚ニ涉ル者ナリ、心ヲ用テ診スベシ、サテ上ノ如ク、身体洪腫スル者ハ、小便不利ノ者多シ、時ニ小便ノ通利スルハ、水气和順シテ、通スルニハ非ズ、内下ノシマリアシク、上焦ノ処ニ、寒ト水血ノカラミタル処アリテ、其為ニ口ニ多ク涎ヲ出ス、上焦トハ、胃中ノ上、胸ノ部ナリ、コレ下部ニカノナキ処ヨリ、小便ハ通利スレ、凡例ニハ、上部ニ寒アリテ、多ク涎ヲ吐スルハ、前条ノ如ク、身發熱ハナクテモ、胸滿、四肢頭面腫ノ形アリテ、黄汗ニ属スルナリ、故ニ此為黄汗ト云リ、コノ条ハ、風氣相搏ヲ根本トシテ、互

ニ強弱アリテ、泄風トナリ、風水トナリ、又黄汗トナルヲ、示シタルナリ、名ハ三種ニ分別スレ、凡、氣ヲ動揺スルヨリ、其病者ノ宿ニヨリテ、此ノ如クニ変化スルナリ、コノ条ヲ以テ、脈ノ浮洪ニ風水アリ、癭疹痲癩ノ皮表ニアラハレザル処ニ、黄汗ノ瘧ヲ、生ズヘキ因ヲ知ルベシ、泄風ハ、コノ水、気病ノ外ヘ、変化シタルナリ、故ニコノ三種ヲ互ニ示シテ、其変化ノ一定ナラザル中ニ、各其因ノアル病理ヲ、挙ゲ示シタルナリ、

口寸口脈沈滑者、中有水気、面目腫大、有熱、名曰風水、視人之目裹上、微擁如蚕新卧起状、其頸脉動、時々歎、按其手足、上陷而不起者、風水、

サテ上部寸口ノ脈ノ沈滑下、沈ンデ底ニカノアルハ、中ニ水気ノアル脈ナリ、故ニ面目腫大ニナレリ、然レ、凡、上部ノミニテ、下部腰腹ノ部位ノ、石水トトノ証ニハアラズ、故ニ一身ニハ及バズ、コレ寸口ノ脈ノ沈滑ナル所以ナリ、コノ証上逆シテ、面目ノミ腫大ナルガ故ニ、気逆ニツレテ熱アリ、コレ身發熱、又ハ痲癩癭疹ノ因ノアル、黄汗トハ異ナリ、故ニ名曰風水トアリ、然レ、凡、皮表ノ風水ニハアラズ、上部ノ風水ナリ、其時病者ノ、眼眶ノ上ノ方ヲ、氣ヲ付テ見ルニ、目ノ上ノ方ヨリ、上眶ノ皮、ムツクリト高クナリテ、眼ヲ上ヨリカ、エテ、細目ニナル形ナリ、擁トハ上、外ヨリ眼ヲ引ツ、ンデ、カ、エ、イ、ダク意ナリ、サテ其腫レタルヲ見ルニ、

蚕ノ新ニ眠リタルガ、一皮脱シテ睡ヲ出テ起タル時、ムツ
 クリト腫テ、光沢ノアルト同ジ形状ナリ、其病者熱アリテ、
 上部ニ水ヲ貯エタル故、頷トテ首筋ノ脈高ク見ユ、手足ニ
 水気アリテ行ラズ、按テ見レバ、上陷トクボミテ、穴アクナ
 リ、故ニ上陷シテ起ラザル者ハ、風水ト云リ、コレ皮水ノ按
 乏、没指ト、ヨク似タレ、凡、上部ノ水ニテ、面目腫大トナリ、
 ノ上熱アリテ、目ブタノ上ノミ腫テ、逆上シ、頷脈動キ、時ニ
 水気咽喉ニ迫リテ、效ヲナス所ノ証ナレバ、其手足ノ水ハ、
 主ニアラズ、上逆シテ、面目腫大以下、時々效スル所ノ餘波
 ナレ、凡、水ノ行ラザルヲ示シテ、皮水ノ証ニアラズ、ヤハリ
 風水ノ症ナリト、示シタルナリ、

口太陽病、脉浮而紧、法當骨節疼痛、反不疼、身体反重而酸、其
 人不渴、此為風水、汗出則愈、惡寒者、此為極虛、發汗得之、渴而
 不惡寒者、此為皮水、身腫而冷、状如周痺、胸中窒、不能食、反聚
 痛、暮躁不得眠、此為黃汗、痛在骨節、效而喘、不渴者、此為肺脹、
 其状如腫、發汗即愈、然諸病此者、渴而下利、小便數者、皆不可
 發汗、

コノ条モ亦風水、皮水、黄汗ノ差別ヲ示シ、傍ラ肺脹ノ証一
 テヲ挙テ、似テ非ナル处ヲ以テ、各其証ヲ辨別シテ、学者ニ
 示ス、ヨク、心ヲ潜メテ誦ムベシ、サテ太陽病、脉浮而紧ト
 云リ、浮ハ表ヘ気ノハリ出ス、脉ナリ、又重クトレバ、紧ナル
 ハ、気ニツレテ内ノ水モ、表外ヘ迫ル、脉ナリ、若シ浮紧トバ

カリアリテ、而ノ字ナキ処ハ、皮表バカリノ衰ナレ、凡、而ノ
 字ニテ、表ハ勿論、裏ノ水気モツレテ迫ルナリ、コレ浮ノ脉
 ヲ以テ見レバ、表ニ水気ヲ滯ラス処アリ、又緊脉ノ勢ハ、何
 レ水気ノ衰ナレバ、法當骨節疼痛ト云リ、コレ一通リ、太陽
 自發ノアタリ、一エノ、脉証相忘ノ処ナリ、然ルニコノ条ハ、
 反テ疼痛ナクシテ、身体反重、而酸ト云リ、コレ而ノ字ヲ、浮
 緊ノ間ニ、挿ミタル所以ナリ、以上ノ如ク、皮表ニ氣ノ張り
 出ス勢ニテ、裏水マデモ、外表へ迫ル勢ハアレ、凡、十分外表
 バカリニモ凝ラズ、タゞ一身ノ水、表氣ノ張り出ス勢ニツ
 レラレテ、順流ヲ失フテ、内外共ニ、水気ニ衰ヲ生ジタルヲ
 示セリ、而酸トハ、水肉中ニ滯リテ、氣ヲシメル故ナリ、コレ

ヒリクスルシビレナリ、不仁ハ、氣血共ニ、陽氣ノ滯ルシビ
 レ、痺ハ血分ノシビレ、コノ酸ハ、水気ノ滯ルシビレナリ、コ
 ノ三ノ差別ハ、己ニ經篇ニ辨ゼリ、故ニコ、ニ畧ス、右ノ如
 ク表氣ノ衰ニテ、裏水一身ニマハリテ、疼ムベキ証ナレ、凡、
 反テ疼マズ、疼マザレ、凡、水気ノ衰ハ、緊脉ニテ判然タレバ、
 何レ水気ノ衰ハ、ナクテ叶ハガルナリ、故ニ身体反重シ
 テ、其上ニ太陽ノミナラズ、内ノ水マデ、肉裏ニ滯リテ、重キ
 証ナレバ、酸ヲナスナリ、コレ太陽上篇ノ、傷寒脉浮緩、身不
 疼、但重、乍有輕時ノ、症ト、病状ハヨク似テ、太陽自發ニテ、脉
 ノ浮而緊ナルト、傷寒ニテ至テ輕症ナレ、凡、表裏俱ニ徹シ
 テ、水気十分凝ラズシテ、順流ヲ失シタルトノ違ヒアリ、傷

寒ハ始ヨリ内外俱ニ寢アル故ニ身ノ重キハアタリマエ
 ナリ太陽自発ハ始ヨリ表裏共ニ貫クナキ故ニ身体ノ
 疼痛ハ表水ノ寢ノアタリマエナレバソレニ反シテ疼マ
 ズ疼マザル者ナラバ汗出ルカト見レバ汗ハナク裏水ニ
 寢ヲ生ジタル故ニ身体反重ト及ノ字ヲ置リコレ自発ト
 外邪トノ差別ニテ及ノ字ニ所ニアルナリ裏ニ気血ノ寢
 アラバ太陽病ハヤンデ全ク裏証ニ及ブベキ者ナレバ太
 陽皮表ノ為ニ裏水ヲ動シテ外迫スル者ナレバ内ニ気血
 ノ熱又ハ乾燥等ノ寢ナキ故ニ其人ノ渴ト云リコレ裏水
 ノ寢ヲ見セテ始ニ脈浮而緊ト而ノ字ヲ入タル所以ナリ
 表ヲ主トシテ裏モ共ニ波及シタル証ナリ故ニ此為風水

ト云リコレ汗出テ皮表ノ水ト気ト和スレバ裏水ハ客ナ
 レバ愈ル証ナリ故ニ汗出即愈ト云リ而レバ発汗劑ヲカ
 ケテ發表スルトハ少シ異ニシテ夕々表気ヲ和シ水ヲ順
 行サスレバ皮表ノ水故ニ治スルナリマ、能ク内ニ順下
 シ小便ニ通利シテ身体ノ重キヲ治スル者モアリ故ニ一
 概ニコノ汗出ノ字ヲ発汗劑トナシテ見ルベカラズサテ
 コノ証ニ惡寒ノアル者ハ極塵ノ者ナリ何ントナレバ太
 陽自発ニテ裏証ヲ兼ル者ハ虛実共ニ惡寒ノアル者ナレ
 ばソレハ气道主ニシテ水気ノ腫ノナキ証コレハ水気主
 ニシテ皮表ニ滯リ其餘波裏水ヲモ滯ラス証ナレバ発熱
 モナク夕々水ノ凝リテ皮表ノ陽気ノ不行ナルヨリ生ズ

ル惡寒ナレバ、極虚ノ者ナリ、然レモ脈浮而緊ノ正証ノ一
 、ニテ、惡寒スルニハアラズ、汗出即愈ト云テ、發汗劑ト思
 上違エテ、發汗シテ、表ノ陽氣ヲカリ出シタル処ヨリ、得夕
 ル惡寒ナレバ、發汗得之ト云リ、サテ其發汗ニテ、惡寒セズ、
 水ハ其俛皮表ニ滯リテ腫レ、渴ノアル者ハ、發汗ニテ、又内
 ノ水ヲ、皮表ヘカリ出シ、胃中乾テ渴スル上ニ、皮表マデモ、
 其渴ノ勢迫リテ、惡寒セザルナリ、故ニ渴而不惡寒者、此為
 皮水ト云リ、コレモ正証ノ一、ニテ、渴而不惡寒ニハアラ
 ズ、發汗ノ寢ニテ、裏ノ水動テ、渴ヲ生ジ、皮表ハ其俛腫テ、夕
 ヲ極虚ノ者ニアラザルヲ示シテ、風水ノ如ク、表氣ノ迫リ
 ナキ、表水ナレバ、皮水ト云タルナリ、サテ又發汗ノ寢ニテ、

ヤハリ身体腫レ冷テ、ツメタクシテ、周痺ニ似タリ、故ニ其
 状如周痺ト云リ、周痺ハ、一身冷腫、麻痺スル証ナリ、灵柢ニ
 周痺篇アリテ、病状ヲ委シク説リ、故ニコ、ニ舉ク、灵柢周
 痺篇第二十七、曰、黄帝問于岐伯曰、周痺之在身也、上下移徙、
 随脉其上下、左右相応、間不容空、願聞此痛在血脉之中、邪將
 在分肉之間乎、何以致是、其痛之移也、間不及下鍼、其痛之
 時、不及定治、而痛已止矣、何道使然、願聞其故、岐伯答曰、此衆
 痺也、非周痺也、黄帝曰、願聞衆痺、岐伯對曰、此各在其處、更發
 更止、更居更起、以右忘左、以左忘右、非能周也、更發更休也、黃
 帝曰、善、刺之奈何、岐伯對曰、刺此者、痛雖已止、必刺其處、勿令
 復起、帝曰、善、願聞周痺、何如、岐伯曰、周痺者、在于血脉之中、随

脉以上、随脉以下、不能左右、各當其所、黃帝曰、刺之奈何、岐伯
 對曰、痛從上下者、先刺其下、以遏之、後刺其上、以脫之、痛從下
 上者、先刺其上、以遏之、後刺其下、以脫之、黃帝曰、善、此痛安生、
 何因而有名、岐伯對曰、風寒濕氣、客于外分肉之間、迫切而為
 沫、々得寒則聚、々則排分肉、而分裂也、分裂則痛、々則神飯之、
 神飯之則熱、々則痛解、痛解則斫、々則他痺矣、々則如是、此內
 不在藏、而外不發于皮、獨居分肉之間、真氣不能周、故命曰周
 痺、故刺痺者、必先切循其下之六經、視其虛實及大絡之血、結
 而不通、及虛而脉陷空者、而調之、熨而通之、其癢堅轉、引而行
 之、云々、コノ周痺ニ似テ、一身ノ外側、腫テ冷カニ、内ハ胸中
 ニ血氣窒テ、食スル下能ハズ、ソレノミナラズ、積氣ノ如ク

ニ痛ミ、暮方ニナルト、身体ヲモガキ、眠ルヲ得ザルニ至
 ル、コレ發汗ノ衰ニテ、身ノ腫ハ減ゼズ、陽氣表ニ乏フシテ、
 冷カニナリ、一身ノ外側シビレテ、周痺病ノ如ク、胸中ニ血
 氣迫リテ窒ル、コノ窒ハ、太陽上篇ノ、掩子鼓湯ノ二個条目
 ニ、發汗若下之、煩熱胸中窒者トアル、窒ト同シク、血ノ衰ナ
 リ、血ノ衰ナラバ、痛ノナキハツナルニ、痛ヲ以テ反ノ字ヲ
 置リ、コレ血ノ衰ナレバ、元來水氣病ノ一故ニ、外ノ衰ハア
 リアモ、水氣ノ和シタルニ非ルヲ以テ、痛ムナリ、コレハ陽
 道氣分ニシテ、府ノ積氣ナル故ニ、聚痛ト云リ、サテ暮躁不
 得眠トアル、躁ノ字ニテ見レバ、内ハマ、ス、血ノ衰、殊ニ暮
 方陰分ニナリテ、血氣胸中ニ窒リテ、不能食ニ至ル者ナレ

バ外ニハ水気アリテ内ニハ血ノ衰ヲ生ジタル者ナレバ
 此為黄汗ト云リコレ風水ヲ発汗シタル衰ニテ皮水黄汗
 ニ變動シタルナリ右ノ如ク元來酸レタル者ノ身腫レ胸
 中窒テ食スルヲ能ハズ反聚痛スルコノ痛ガ周痺ノ痛ト
 同ク身腫テ酸レ冷ナルモ暮躁不得眠モ皆周痺ノ如キ病
 状ナリト云タルナリサテ発汗シテモ又発汗セズシテモ
 太陽自発ニテ脉ノ浮而緊ナルヨリ水気ヲ引シメテ痛在
 骨節ト云水気上ニ咽喉マデモ迫リテ效ノ上ニ喘ヲモナ
 シ胃中ニ衰ナキ故ニ不渴ト云ハコレハ水気ノ病ナレ凡
 位上部胸膈ニ在テ殊ニ效ノアル上ニ喘シテ肺ノ部位ノ
 水ナレバ此為肺脹ト云リコノ肺ノ字ヲ坊本ニハ脾ノ字

ニ作レ凡前ニ不渴ト云且效喘ノアル水気ニ殊ニ痛ノ骨
 節ニアル者ナルニ脾ノ字ニ作ルハ何ゾヤ脾脹ト云名外
 ニナシコノ証太陽自発ノ表証ヨリ裏水動テ種々ノ証ニ
 轉衰シ又肺脹ニモ轉ズルヲ示シタリ其状如腫ト云ハ其
 病状水気病ノ腫ル者ト同ジ様ニ見ユレ凡前ニアル肺痿
 肺癰肺脹病篇ノ部類ナレバコレハ発汗シテ治スル者ナ
 リ故ニ発汗即愈ト云リ前々ノ風水ニ発汗ヲ強テ禁ズル
 ニハアラザレ凡タビ一通リ自然ト表水ヲ和シテ汗ノ出
 ルヤウニシタキ者ナリ然レ凡表水ニ決定シタル者ナラ
 バ発汗シテ誤ニアラズ故ニコニ其理ヲ述テ諸ト一切
 表証ノ主トナル水気病ニ渴ガアルカ下利スルカ小便ノ

数ナル者ハ、夕トヒ発汗ノ証、具リタリ、凡、発汗ハアシ、トナリ、故ニ皆不可発汗ト云リ、コレマデノ条ハ、表水ノ凡例ヲ、挙ゲ示シタルナリ、コレヨリ以下ハ、裏水ノ凡例ヲ示シタリ、

口夫水病人、目下如卧蚕、面目解沢、脉伏、其人消渴、病水、腹大、小便不利、其脉沈絶者、有水可下之、

コレヨリ裏水ノ凡例ヲ示セリ、先裏水ノ診ヲコ、ニ挙ルナリ、サテ水気ヲ病ム人ノ顔色ヲ見ルニ、目ノ下ニ卧蚕アリ、コレ前ノ表水ノ凡例ニ、挙ケタル、目裏上、微擁、如蚕、新卧起状ト云ニ反シテ、目下ニ蚕ノ新ニ眠ヲ出テ、ムツクリト高ク起リテ、蚕ノワクレタルガ如ク、面目光沢アリテ、鮮沢

トツヤクトシテ見ユル者ハ、必ず水気裏ニ滞リテ、其勢ノ面目マデモ及ビタル者ナリ、コレ目上目下ニテ、表水裏水ヲ差別セリ、裏水ナレバ、脉ハ内ニシマリテ伏スルナリ、コレ内ニ熱ヲ貯エタレ、凡、飲ム所ノ湯水、内ノ燥热ヲ潤サズシテ、皆胃外ニ滞ルヨリ、頻リニ渴シ、飲デモ飲デモ、渴ノヤマガルナリ、故ニ其人消渴ト云、其水滞テ順行セズ、一身ニマハリテ腫ヲナス、故ニ病水ト云リ、腹大ニナリテ、小便ハ一向通セズ、コノ処マデニ至ル者ハ、脉ノ内ニ伏スルノミナラズ、水気十分内ニ滞ル故ニ、沈絶トナルナリ、コレ脉ノ伏スル所ノ者、今一段沈ンデ、手ニ応セザルニ至ル、故ニ沈絶ト云リ、何レ十分水ノ堅凝シテ、少シモ津液ノ助トナラ

ガル者ナレバ、コノ水ヲ下シテ、サバクベシトナリ、故ニ有
 水可下之ト云リ、コレ裏水ニシテ、下スベキ証ヲ示シタル
 凡例ナリ、コノ篇ハ、始ニモ説ク如ク、表裏虚実共ニ、十分舉
 ゲ示シテ、辨別シタル篇ナレバ、水気一病ノ變化轉遷ヲ、遺
 ル所ナク、辨シ尽セリ、餘ノ篇モ、コノ篇ヲ以テ、規別トナス
 ベキナリ、

□心水者、其身重而少気、不得卧、煩而燥、其人陰腫、
 コレヨリ裏水ノ五種ヲ分別ス、前ノ五種ハ、表裏ヲ辨テ辨
 明シ、コノ五種ハ、裏水ノミノ分別ノ示ス、故ニ五藏ヲ以テ、
 コレヲ論スナリ、サテ水気内心ノ部位ニ滞ルヲ、心水ト云、
 心ノ部属ハ、一身ノ血脉ナレバ、水血脉ヲ順流セザルハ、

一身ニ滞リテ、重クナルナリ、一切ノ病ニテモ、重キハ皆裏
 ニ涉リテ、水ノ行ラザルナリ、心中ニ気ヲ引シメテ、外へ宣
 ビザル故ニ、少気トテ、息モ内ニ縮ムニ至ル、其上心中ニ水
 滞リテ、体ヲ横ニスレバ、一向ニ少気急迫スル故ニ、不得卧
 ト云リ、又水心ノ部位ニアリテ、外へ順行セス、胃中ヲ始メ、
 一切ノ府藏共ニ、津液行ラズ、タゞ気、心胸中ニ迫ル故ニ、煩
 而燥スルナリ、コレ燥ハ水気上ニテリテ、下腸胃ニ行ラズ、
 津液ノ燥ク故ナリ、其人陰腫トハ、心水ノミ陰腫ノ症アル
 ニアラス、故ニ其人ノ字ヲ置リ、陰腫トハ、陰莖陰囊ハ勿論
 ノ、婦人ハ陰門腫レ塞ルニ至ルナリ、コレ心気ノ迫ルニ
 ツレテ、下部ノ水モ順行セズレテ、右ノ病状ヲアラハスナ

リ、前ノ痰飲欬嗽病篇ニモ、水在心ト云テ、五藏ノ水飲ヲ掲
ゲ示セリ、然レ凡腫氣ノ一ハ、片言モ言ス、夕、五藏并ニ其
部属ニ、留飲ノ滞ルヲ云リ、コノ証ハ目前腫ヲ生ジテ、浮腫
ノアル中ニ、各五藏ノ主客アリテ、水氣ノ病状ノ、種々ノ變
化ヲ示シタルナリ、ヨク々辨明スベシ、

口肺水者、其身腫、小便難、時々鴨漉、

肺ノ部属ハ、一身ノ皮毛ナレバ、心水ノ身重キヨリ、一等外
ニシテ、皮表ニ水氣ノ滞ルナレバ、其身腫ト云リ、小便難ニ
シテ、通ジ難キハ、水皮表ニ夕マレ故ニ、氣表外ノ方へ滞リ
テ、下降セザル故ナリ、此ノ如クニ、氣モ水モ、表外へ迫ル所
ハ、腹内ノ氣水、空虚ニシテシマリナキ故ニ、始終ニテハナ

ケレ凡、水氣腹内ヨリ下へヌケテ、鴨漉ヲオヌナリ、時々ト
アルハ、トキダニテ、オリクハト云、氣味ナレ凡、内ノ実セザ
ルヲ徴スベシ、鴨漉ハ、五藏風寒積聚病篇ノ、ヨ焦竭部ニ詳
ナリ、肺脹ノ喘欬スルトハ、違ヒテ、皆皮表ノ水ナリ、
口脾水者、其腹大、四肢苦重、津液不生、但苦少氣、小便難、
脾ノ部属ハ、一身ノ肉、并ニ四肢ナレバ、其部位ニ水滞リテ
行ラス、第一胃中ノ水氣、不順ニヨリテ、腹大トナレリ、コレ
腹滿腹脹トハ、少シク異ナリ、腹滿腹脹ハ、胃中実シテ、水氣
ヲ胃外へ推シ出ス証ナリ、又太陰ノ腹滿トモ異ナリ、太陰
ノ腹滿ハ、脾ノ氣虚シテ、行ラザルヨリ、水血ソレガ為ニ動
カザル故ナリ、コノ証ハ、脾水ナレバ、胃中ノメグリ悪ク、水

言言醫傳 卷一
氣腹部ニタリテ常ヨリハ大ニナルナリコレ水気主ニ
シテ脾胃ニ滯ル故ニ夕々其腹大ト云リ四肢マテモ水滯
リテ重キニ堪ズ故ニ苦重ノ苦ノ字ヲ入タリ津液不生ト
ハ此ノ如クニ水気滯リテ用ヲナサズ少シモ旋運セザル
故津液ノ為ニナラズ口中マテ乾燥ハセ子凡ウルホヒヲ
生ゼザルナリコレ水ノ為ニ脾気ノ運行ノ留メラレタル
ナレバ脾気内ニシメラレテ少気ヲ苦シム又小便難ヲモ
苦シムナリ少気ノ証ハ己ニ心水ノ条ニモアリコレ脾胃
ハ餘ノ四藏ニモ通ズル所アル故ニ腹大ニシテ四肢ノ重
キヲ苦シム所ヨリ少気ニ堪難キ故ニ苦ノ字アリ小便難
ハ肺水ノ条ニモアリコレ脾ノ部ニ水気旋運セズシテ上

示別車

心肺二藏ノ病状マデモ兼子タルナリ苦ノ字ノ二所ニア
ルハ甚ダ堪工難キ意ヲ示シタルナリ何レ水気病ノ事ナ
レバ五藏ハ勿論表裏共ニ小便不利不通ノ者多シ夕々其
部位ニヨリテ水ヲ外へ和スルカ内へ和スルカシテ水気
旋運順環スレバ小便ヨク通利シテ和スルナリ後世一テ
ハ腫気ヲ一概ニ脾胃ニノミ片寄セテ説タルト多シコレ
ハ水気ノ部位ヲ詳ニ辨セズシテ水穀ハ胃中ノ主ル所ト
云荒増ヲ以テ説タル臆見ナレバ正説トハ云難シコレ五
藏各水気ノ寢アルヲ知ザル者ノ強合ノ説ナリ
口肝水者其腹大不能自轉側服下腹痛時々津液微生小便
続通

サテ心、肺二藏ノ水ハ、上部ニアリテ、胸膈以上ナレバ、腹ノ
大ナルナリナシ、脾、肝、腎ノ三藏ハ、腹ニ位スル故ニ、其部位ニ
水タマリテ、大ニナルナリ、然レバ、各主トスル病証アル故
ニ、混雜セヌヤウニ、ヨクク辨別スベシ、不能、自轉側ハ、太陽
下篇ノ、桂枝附子湯ノ条ノ風濕ト、同病ナレバ、彼ハ至テ陽
虛血滯ノ証ヲ、傷寒ノ衰ニテ、濕氣動搖シテ、自轉側スル
能ハザルナリ、コノ条ハ、肝ノ部位ニ、水氣滯リテ、腹大ニナ
リテヨリ、自轉側スルヲ能ハザルナリ、コレ肝ノ部属ハ、一
身ノ筋膜ナリ、轉側スルハ、筋ノ用ナルニ、其肝ノ部属ノ筋
膜ニ、水氣滯リテ、用ヲナサザル故ニ、不能、自轉側ナリ、コレ
ハ人ニ并セテモラエバ、出来ル証ナリ、轉側ニ三ノ差別ア

古言醫傳 卷十八

示別轉側

ルハ、己ニ經篇ニ説キ示シタリ、サテ筋バリテ、轉側ノナ
ラヌ者ハ、腹下又ハ腹部ニ、水氣滯リ、其腹下、腹ノ水ト血ト、
和セズシテ痛ヲ生ズ、痛ニツレテ上行シテ、水氣咽口ニ迫
ルト、時々津液微生、コレ口中ニオリク、津液ヲ生ズレバ、微
ナル故ニ、微生ト云リ、論注ノ評ニモ、口中有淡水之証ト云
リ、コレ上ノ津液不生ノ反ニシテ、少シク津液ノ生ズルハ、
腹下腹痛ニヨリテ、水氣上ニ迫ルナリ、コレ腹大ノ病状ハ、
同ジケレバ、不能、自轉側ト、腹下腹痛トノ証ハ、肝ノ部属ニ
シテ、古訓ニ充レバ、少陽部位ノ水氣ナリ、津液ノ時々ニ微
ク生ズルハ、上ニ迫ル水ナレバ、堅凝シタルニハアテズ、故
ニ小便モ、時々津液ノ微生ニ、結テ通スルナリ、時々ノ字、下

古川醫傳 卷十八

七

見川干載

ノ二句ニカケテ見ルベシ、サテ小便続通トイヘ凡、腹下腹痛、并ニ腹大ノ証ノ解スルニハアラス、コレ肝水ノ病、寢ニテ、津液微生、小便続通スルバカリノコトナリ、コレ等ノ処モ、ヨク心得ベシ、

口腎水者、其腹大、臍腫、腰痛、不得溺、陰下湿、如牛鼻上汗、其足逆冷、面反瘦、

腎ノ水モ腹ノ大ナルハ、肝脾ト同ジケレ、凡、夕、臍ノ腫ルガ、腎ニ水気ノアル目當ナリ、殊ニ腰ハ腎ノ府ト、脉要精微論ニ出タレバ、腰ノ痛ムハ、腎ノ水ナルコト明ナリ、不得溺ト云ハ、小便難、小便數、又ハ小便不利トハ、少シク異ナリ、コレ臍腫レ、腰痛テ、重クシテ、小便セシト欲シテモ、溺器ニ臨ム

ニ耐ガル意アリ、勿論小便ハ不通ノ者多シ、陰下湿テ、如牛鼻上汗、トアルハ、陰囊肝門邊ニ、ジタクト湿リ気アリテ、牛ノ鼻ノ上ニカク汗ノ如ク、子バリタルシメリアリ、コレ腎ハ下部ヲ主ルニモ、殊ニ臍下小腹腰ノ邊ニ、水気ノ滯ル証ナレバ、如此ニナルナリ、右ノ如ク下部ノ陽気ノビズシテ、足部逆冷シ、上部ニ迫ラヌ水ナレバ、面ハ反テ瘦セタルナリ、足逆冷ノ証ニ、少シク酸レト、腫レトヲ帯ル者多シ、以上五藏ノ水気ヲ示シテ、大抵ヲ説キタルナリ、按ズルニ、医宗金鑑曰、欬喘、而不腫脹、謂之痰飲、腫重、而不欬喘、謂之水氣トアリ、コレ余カ始ニ説シ如ク、前ノ痰飲病篇ノ五藏ノ水ハ、腫ハナクシテ欬喘アリ、コノ五藏ノ水ハ、欬喘ナクシテ腫

アリコノ差別ニテ留飲ノ者ト水氣ノ証トヲ辨知スベシ
 口師曰諸有水者腰以下腫當利小便腰以上腫當發汗乃愈
 コレハ上ニ有水可下之ト云又始メニ汗出即愈ト云テ表
 裏ノ部位ニテ汗下ノ治法ヲ分チタルニ准ジテ上下ノ部
 位ニテ其治方ヲ處スベキ心得ヲ示シタルナリ前ノ中ニ
 汗出ト發汗トノ差別ニテ愈ルト變動シタルトノ反アリ
 コノ發汗モ一概ニ發汗劑ニハアラス夕夕皮表ノ水ヲ和
 スルヤウニシテ汗出レバ即愈ト云心ナルベシ本條ニ發
 汗劑ノ甚シキ方ナシコレニテモヨク心得ベシサテ諸
 有水トハ一切ノ水氣病ヲ云タルナリ腰ヨリ以下ノ腫レ
 タルハ小便ヲ通利シテ水ヲサバクベシ腰以上ハ汗ニ和

シテ水ヲサバクベキ者ナリト示シタルナリ發汗ノ字ハ
 小便ヲ利スルニ對シテ云タル者ニテ真ノ發汗ニハアラ
 ズ前ニアル諸病此者渴而下利小便數者皆不可發汗ト云
 タルニ對シテコノ條ヲ示シタルナリ然レバ水氣病ハ夕
 トヒ表水夕リ凡小便ノ利通ヲ以テ主トセザレバ水氣ハ
 トレヌ者ナリ故ニ小便ノ利スルヲ治方ノ主意トシテ傍
 ラ汗下ノニツヲ交エテ方ヲ處スベシコノニ奉ル所ハ大
 體ノ凡例ナリト思フベシ必シモコノ理ニ泥執スルナ
 カレ

口師曰寸口脈沈而遲沈則為水遲則為寒々水相搏跌陽脈
 伏水穀不化脾氣衰則驚漉胃氣衰則身腫陽脈卑陰脈細男

子則小便不利、婦人則經水不通、經為血、不利則為水、名曰血分、卑一作革、

コノ条モ同シ水気病ナレバ、血分ヨリ生ズル腫気ヲ辨ゼリ、與ニアル気分ノ水ト、共ニ併セテ、気血ノ衰ヨリ水気病ヲ生ズルヲ示シタルナリ、サテ寸口ノ脉ノ沈而遲ナルヲ察スルニ、沈ハ水ノ滞リテナス所、遲ハ内ノ血ノスラク運ラズシテ、凝滯スル故ナリ、コレ元來陽氣十分ニ達セズシテ、コノ水血ノ衰ヲ生ジタルナリ、陽氣宣通スレバ、沈ノ脉ノ水モ、遲ノ脉ノ寒モ、共ニアルマヅキ証ナレバ、今沈而遲ノ脉ヲアラハスハ、陽氣ノ不順ヨリ起ル所ノ、水ト血トノ衰ナリ、其寒水相搏テ、血ノビズ水滞ル片ハ、跌陽ノ脉モ、

十分内ニ沈ミ伏セリ、コレ跌陽ハ、胃中ヲ候フ脉ナレバ、胃中ノ陽氣果シテ乏キ故ニ、食飲スル所ノ、水穀和セズシテ、マスキ脾氣ノ衰フルヨリ、水下リトナレリ、故ニ脾氣衰則驚漉ト云リ、胃氣衰則身腫ト云テ、水気ヲ行ラヌカ、又ケテ、一身肉中ニ、水滞リ腫ヲナス、其時ハ血分マスキ瀦リテ、陽脉ノ上部、并ニ表部ノ脉、卑クナル、外ニ卑脉ト云名ナシタ、其脉ノカナク、内ニ沈ンデアルヲ、形容シタルナランカ、沈ト伏トニ非ズシテ、カナク自然トズリコム形ナリ、一本ニ革ニ作レリ、革ノ方大ニ穩カナリ、コレ虛勞病篇ニ、革脉ノ形状ヲ委シク挙テ、男子則亡血失精、婦人則半產漏下トアリテ、コノ状ノ亡血ニ属スルニ符合セリ、陰脉ノ下部、裏

ノ部ノ脉ハ細トナル、コレ陽氣上、ニノビズ、陰血内ニ凝滯
シタル脉ナリ、男子ナラバ、ソレガ為ニ小便不利トナリ、婦
人ナラバ、經水不通ノ証トナル、コノ經水ハ別物ニアラス、
即チ血ナリ、男子ニハ經水ハナケレ、内ノ血ノ亡瀆スル
ヨリ、小便ノ不利スルハ、婦人ノ經水ノ不利ト、同病因ナリ、
故ニ血ノ利セザル所ヨリ、又水氣ヲ滯ラシテ、腫ヲナスナ
リ、故ニ血不利則為水、名曰血分ト云リ、

口問曰、病者苦水、面目身体、四肢皆腫、小便不利、脉之不言水、
反言胸中痛、氣上衝咽、状如炙肉、當微欬喘、審如師言、其脉何
類、師曰、寸口脉沈而緊、沈為水、緊為寒、沈緊相搏、結在關元、始
時當微、年盛不覺、陽衰之後、榮衛相干、陽損陰盛、結寒微動、腎

氣上衝、喉咽塞噎、服下急痛、醫以為留飲、而大下之、氣擊不去、
其病不除、復重吐之、胃家虛煩、咽燥欲飲水、小便不利、水穀不
化、面目手足浮腫、又與葶藶丸下水、當時如小差、食飲過度、腫
復如前、胸腹苦痛、象若奔豚、其水揚溢、則浮欬喘逆、當先攻擊
衝氣令止、乃治欬、々々止其喘、自差、先治新病、々々當在後、

コノ条ハ、人々宿癖ノ毒塊アリテ、其宿物ヨリ、種々ニ變化
シテ、一定ナラザル中ニ、水腫病ヲ得タルヲ、示シタルナリ、
其水腫ニナリテモ、水腫病ニハ苦シマズシテ、宿毒ノ動ク
ニ因テ、種々ノ病状ヲナスヲ示シテ、先新病ヨリ退ケテ、宿
疾ハ後ニ治スベキヲ、委シクアラハシ、標ヲ治シテ、本ヲ
後ニスルノ手段ヲ辨ゼリ、コレ是追ニ追々説キ示ス所ノ、

百合先天ノ一毒ノ變化ナリ、コノ篇ハ始ニモ云如ク、水気
 一病ノ變化ヲ尽シテ、血分気分ノ上ニ、又宿毒ノ變ニテ、水
 気病ノアルヲ示シタリ、實ニ緯篇中ニ於テ、十全ノ篇ト
 云ベシ、サテ問曰、病者水ヲ苦シム所ノ証ニシテ、面目ヲ始
 メ、身体四肢マテモ皆腫テ、小便モ不利ノ証ナルニ、其病者
 ヲ診スレバ、水気ノ一ハ云ズシテ、反テ胸中痛、氣上衝咽、其
 咽ニツク状チ、灸肉ノ如ク、當微、效喘ト、承ハリ置キタル處
 審ニコノ証ヲ察スルニ、師ノ言ニ少シモ違ハズト、弟テ聞
 タル通りノ病者ノ一ヲ、今問ヲ發シタルナリ、脈之ノ脈ノ
 字ハ、追々云タル如ク、診ノ字ノ義ナリ、サテ右ノ如クニ、水
 腫ニテ水ヲ言ズ、胸咽ノ變ヲ言フ者ノ脈ヲ、始メ診察シテ、

其者ノ診ハ、何ニ類スト問ヒタルナリ、コノ脈ノ字モ、亦診
 ノ字ノ義ナリ、師ノ答ニ、寸口脈沈而緊トハ、前ニモアル如
 ク、沈ハ水ノ滯リタル脈、緊ハ十分ニ凝結シタル脈ナリ、コ
 ノ寒ノ字ハ、傷寒ノ寒ノ字ノ義ニシテ、堅ク引シマリテ、水
 血共ニ凝リタルナリ、故ニ緊為寒ト云リ、沈緊相搏トハ、右
 ノ水血相カランデ、結ビ堅クシテ、關元ニ在ルナリ、關元ハ、
 臍下三寸任脈經ナリ、コレ初生ノ時ヨリ、臍下ニコノ結寒
 アリテ、始ノ百合篇ニ説タル如ク、萬病ノ根本トナルナリ、
 始時當微トテ、コノ病者ノ少年ノ時ハ、若キ勢ニテ微ナリ、
 壯年ニナリテハ、マスキ盛ナル故ニ、コノ結寒アリテモ、
 覺エザルナリ、サテ四十前後ヨリ、陽気衰ルニ及ンテ、気血

毛會通ヲ失ントシテ、榮衛相干スナリ、榮衛ハ氣血ノ別名
 ニシテ、一身ヲ榮養衛護スルノ義ナリ、其榮衛相干スニ至
 レバ、陽ハマスク衰テ損ジ、陰ノ血分ノミ、十分ニ堅凝セシ
 トス、其陰ノ勢ノ盛ナル時ニ、彼ノ宿ニアル處ノ、脐下ノ結
 寒、少シク動テ、水氣ヲモ動カシテ、上テ咽喉ニ衝クナリ、腎
 氣トハ、下部ノ水氣ヲ云、其咽喉、水氣ノ上衝ニ回テ、塞リ噎
 トムセブナリ、噎ハムセブト訓ジタルノミニテハ、義足ラ
 ズ、咽ニ塞リツマルヲ噎ト云、食物ノ胸膈ニツマルヲ、膈噎
 ト云ノ義ト同ジ、咽喉迫モ水氣上衝シテ、塞噎スレバ、下ノ
 水氣、イヨク上ニ上ラントシテ、服下ノ處マデモ、血ヲシメ
 テ、急痛スルナリ、ソコデ医者ノ思ハクニ、コレハ留飲痛ナ

ラントテ、大ニコレヲ下シテ、陽氣ヲ攻撃セシ為ニ、テビシ
 キ藥ヲ用ヒテモ、其病不除ナリ、故ニ思案ヲカエテ、咽喉ニ
 噎塞スル病ナレバ、上部ノ水飲ナラント思テ、一度ナラズ、
 二三度モ、吐劑ヲカケタリ、コノ医ノ字ニテ、誤リヲ示シタ
 リ、及ノ字ナキハ、下劑ノ候ノナキニシモ非レバナリ、右ノ
 如ク重子テコレヲ吐セシメシヨリ、胃中ノミナラズ、脾モ
 腸中マデモ虚シタリ、故ニ胃家ト云リ、コレ胃ヲ始メ、胃ニ
 附近スル處マデモ虚シ、氣ハ心胸ニ迫リテ煩シ、重子テ吐
 劑ヲカケテ、津液ヲ吐シタル故ニ、咽乾テ水ヲ飲ント欲ス
 ルニ至リ、ソレヨリ小便不利トナリ、胃家虚スル故ニ、水穀
 和セズ、胃氣運行ヲ失シテ下利シ、小便利セザル故ニ、水氣

一身ニマハリテ、面目手足浮腫スルニ至ル、コレ医ノ誤リ
 ニテ、此ノ如キノ衰ヲ生ジタルナリ、回テ葶藶丸ヲ与エテ、
 水気ヲ下スニ、ソノ時ハ水下リテ、少シク差エタル様ニ見
 ヲレバ、分量ヨリ食物過テ進ム片ハ、腫氣又前ノ如クニナ
 リ、ソレヨリ宿病迫リテ、胸腹苦痛スル、象若奔豚トテ、始ニ
 アリシ氣上衝咽ノ勢、今一段強クナリタリ、故ニ象若奔豚
 ト云リ、此ノ如クニナル片ハ、水氣揚溢トテ、アガリアフレ
 テ、上部皮表ニ迫ル故ニ、浮トウソバレ、效トセキヲナシ、喘
 逆トゼリク云テ上逆ス、コレ水ノ揚溢スルヨリ、ナス所ナ
 リ、サテコレニ治方ヲ處スルニ、先上衝スル水氣ヲ一旦強
 ク攻撃シテ、止ムヤウニシ、ソレヨリ咽喉ニ迫ル效ヲ治ス、

效止テ水氣和スレバ、喘ハ自ラ差ルナリ、然シテ後ニ宿疾
 ノ水寒凝結シテ、此ノ如クニ變化ヲナス所ノ根本ヲ治ス
 ベシトナリ、故ニ先治新病、々當在後ト云リ、コレ新ニ變化
 シテ来ル所ノ病ヲ治シテ、後ニ宿疾ヲ治スルハ、始ニ云シ
 標ヲ先ニシ、本ヲ後ニスルノ治療ナリ、按ニ臟腑經絡先後
 病篇曰、夫病痼疾、加以卒病、當先治其卒病、後乃治其痼疾也
 トアルモ、此篇ト同意ナリ、コレ宿疾ノアル者ハ、外邪ノ
 輕症ニテモ、宿病ノ衰ニヨリテ、種々ニ衰ズル者ナリ、况ヤ
 重症ニ、宿疾ノ衰動ヲ帶ル者ヲヤ、故ニヨクハ八条目ヲ推
 明メテ、病者ニ臨ムベキナリ、サテ葶藶丸ノ方見エズ、按ニ
 儒門事親曰、神助散、舊名葶藶散トアリ、コレ旧名トアル故

ニ古ヨリ傳來シタル方ヲ神助散ト名ヲ改メテ己ガ著述
ノ方ニシタルヤ疑ハシコノ方ヲ丸ニシタル者カ故ニコ
、ニ其方ヲ舉ゲ示シテ後人ノ工夫ノ基トス旧名葶藶散
今名神助散方苦葶藶二兩黑牽牛三兩半沢瀉二兩猪苓二
兩椒目半兩右為細末每服葱白三莖漿水一盞煎至半盞入
酒半盞調藥三莖絕早面東服之トアリ以上凡例十三個条
ハ水気病ノ變化ノ大体ヲ示シテ本条ノ証ヲ分チ治方ヲ
處スルノ助トス読者其意ヲ得ベシ

△少陰脉沈而滑沈則為在裏滑則為実沈滑相搏血結胞門
其痕不瀉經絡不通名曰血分

コノ条ハ婦人ノミニ限レ凡前二個条ノ凡例ヲウケテ其

主意ヲ得ル片ハヨク病情ニ達スベシ故ニ前二個条ノ凡
例ノ附録トナス者ナリサテ少陰ハ腎ノ部ヲ候フ脉ナリ
コレ手ニテハ左右ノ尺部ヲ以テ少陰ノ候トス其脉ノ沈
而滑ナルハ裏ニ水ノ凝テ実シタル証ナリ故ニ沈則為在
裏ト云リ在裏トバカリニテハ何が裏ニ在ゾト云ニ前々
ノ条ニ沈則為水ト云語二個所ニアレバ沈ノ脉ニテ水ガ
裏ニ在ト云フヲ含ンデ云タルナリ滑ハ其裏ノ水ノ堅ク
凝テ実シタルナリ裏水堅ク凝ルニ回テ血モ凝リソレヨ
リシテ血モ胞門ニ結ブニ至ル胞門ハ関元ノ左関ク一二
寸ニアリ右ニ関ク一二寸ヲ子戸ト云其所ニ血結テ水気
ヲ留テ腫ヲナスナリ其胞門ニ結ビタル血遂ニ堅塊トナ

リテ行ラズ、故ニ其痕不泻ト云リ、痕ハ血塊ナリ、其痕下降セズシテ、經水ヲシメテ通セザラシメ、經絡俱ニ不通トナル、コレ亦名曰血分ト云リ、實ニ婦人ノ水腫ニ、コノ血分ノ証アリ、故ニ始ノ血分ノ条、并ニ前条ノ天然ノ毒ノ結寒ノ始ヨリ関元ニ結在スル条ヲ合シテ、婦人ノ血分ヨリ起ル水氣ヲ辨別セリ、

○風水、脈浮、身重、汗出、惡風者、防己黃芪湯主之、

コレハ水氣動搖シテ、皮表ニ浮ブ証ナリ、故ニ脈浮トナレリ、水表ニ凝結セズ、夕夕一身ニ滯リテ、運行セザル故ニ身重クシテ、汗出ルナリ、其汗出ルニツレテ、氣モ共ニ表ニシテ和セス、故ニ惡風ス、然レバ水ノ動テ、皮表ニ浮ブヲ主トシ

テ、氣ノ和セザルハ客ナリ、コレ前ノ瘧濕喝篇ノ防己黃芪湯ト、同症ニシテ、濕ト水トノ違ヒナリ、然レバ濕病ハ瘀汁故ニ腫氣ナシ、コノ風水ハ、汗出テモ、皮表ニ水ノ滯ル所アル故ニ腫氣ヲ帶ル者ナリ、サテコノ風水ハ、下ノ条ト共ニ、皮表ノ水ナレバ、夕夕表水ヲ運行サスル様ニスルガ主ニシ、凡例ニアル如キ、發汗ノヤウスナシ、コレニ回テ見ルベラズ、夕夕表水ノ故ニ、外表ヘ水氣ノ和スル様ニスレバ、汗出テ治スルナリ、コノ方己ニ濕病篇ニアリ、可併考之、

○風水、惡風、一身悉腫、脈浮不渴、續自汗出、无大热、越婢湯主之、

コレモ亦同じ風水ノ証ナレバ、前条トハ裏ノ気ノ迫り強ク、表ニ張り出シテ、表気_ニ和セザル故ニ、惡風シ、其張り出ス勢ニテ、水気皆皮表ニ推シ出サレテ、一身悉ク腫ルマデ、表ニ迫ル故ニ、脉ハ浮ナリ、コノ証裏ニ津液ノ竭ル所ナキ故ニ、不渴ナリ、夕_ニ表ニ向テ、気ノ張り出ス勢ノ強キニテ、一身悉ク腫レテモ、内ヨリ気ニツレテ迫ル水ナレバ、自汗出ナリ、自汗出ナラバ、灼熱カ、又ハ身熱アリテ、水ヲ推シ出ス者カト見ルニ、左ニアラズシテ、少シモ熱ノアラハレタルナシ、コレ夕_ニ裏ノ気ノ水ヲ推シ出スヨリ、水主トナリテ、表外ニ迫ル風水ノ証ニシテ、越婢湯ノ主タル証ナリ、コレ亦風水ニシテ、表ニ迫ル水ナレバ、自然ト表水和シテ、汗

ニ出テ解スルヤウニスルナリ、コノ越婢湯モ、別ニ發汗劑ニハアラス、裏ノ気ノ外攻ヲユルメテ、表ニ水ノ夕_ニマリタルヲ和スル劑ナリ、方後ニ惡風者、加附子一枚トアレバ、已ニ本条ニ惡風ノ証アレバ、コノ惡風ハ、虛実陰陽ノ差別アルト見エタリ、故ニコノ惡風ハ、惡寒ニシテ、虛証ノ者ナリト決定シテ、附子ヲ加ル方ガ、宜シカルベシ、本文ノ惡風ハ、陽症ノ者ナリ、方後ノ惡風ハ、陰虛ノ証ナリ、コレヲヨク差別スベシ、又古今録驗ヲ引テ、風水_ニ加朮四兩トアリ、コレ亦本文ニ風水トアレバ、朮ヲ加ルニ、再ビ風水ト云ベキ理ナシ、コレ奥ノ越婢加朮湯ニテ察スレバ、裏水ナルベシ、本条ノ証ノ上ニ、今一段水気迫リテ、裏水ヲモ夢タル証ナラン、

左スレバホヲ加ルハ大ニ尤ナルナリ

○皮水為病、四肢腫、水氣在皮層中、四肢畏々動者、防己茯苓湯主之、

サテ皮水ハ凡例ニ云タル如ク、同ジ表水ナレバ、氣ノ動搖ヲ帶ビズシテ、皮層中ニタマリタル水ナリ、故ニ四肢共ニ腫テ、外側ニテ水メグラズ、之ヲ按ス片ハ、指ヲ没スルニ至ル、コレ皮層ノ水ニシテ、風水ノ如ク自汗出ルナク、氣ノ動搖、并ニ不和ヲ帶ビザレバ、惡風モナシ、夕、四肢ノ水、アチラコチラト動キテ、物ニ推シ付ラル、片ハ皮ヘシヤゲテ、暫クスレバ、又元ノ如ク胎腫スルナリ、畏々ハ、アチラコチラト動ク形状ナリ、按スルニ字彙ニ、畏、尽涉切、木葉動、

トアリ、又字典ニ、弋涉切音葉、与揉同、揉々、動、自トアリ、俱ニ水氣四肢ニアリテ、四肢水ノ動クニツレテ、畏々タルナリ、コノ防己茯苓湯ハ、皮表ノ水ヲ和シテ、行ラズ劑ナリ、コレモ自然ト和解スルニ從フテ、汗ノ出ルトモアレバ、和スルニ付テ、小水ニ通利スル者多シ、坊本ニ有、厥、而皮水者、蒲灰散主之、一条、コノ皮水トハ異ナレバ、一身厥ニ及シテ、皮層中ニ水ノアル者ナレバ、蒲灰散ノ方疑フベシ、茯苓、甘艸湯ニテ和スベキ者ナリ、曰テコ、ニ其意ヲ附ス、學者コレヲ考フベシ、

○裏水者、一身面目洪腫、其脈沈、小便不利、故令病水、假如小便自利、此亡津液、故令渴也、越婢加朮湯主之、甘艸、麻黃湯主

主之、

コレ裏水ト云テ、凡例ニアル正水石水ノ二種ヲ兼子タルナリ、コノ証、形ハ風水ト同ク、一身ノ腫ル者ナレバ、脈ノ沈ナルヲ以テ見レバ、裏ニ迫リ滞ル所ノ水、一身面目ニテモ及ンデ、洪腫スル証ナリ、脈沈ニシテ、小便不利ス、故ニ此ノ如ク、水気ヲ病シムルト云リ、若シコノ証ニシテ、小便自利スル片ハ、一身面目ハ洪腫シテモ、津液ヲヒシ、内乾燥シテ、水気ヲ外ニ推シ出シテ、腫ル者ナレバ、渴ヲ生ズルナリ、コノ条、脈沈小便不利ヲ以テ見ルニ、裏水上行シテ、一身面目洪腫スルナリ、其水ヲ推シ出ス所ノ、裏ノ気ヲ下降サスルガ、石膏ノ力ナリ、小便自利シテ、津液ヲヒシテ、渴スル者

ハ、同ジ裏ノ裏ナレバ、水ハ外迫シテ、内ハ乾燥スル者ナリ、甘艸麻黄ヲ以テ、表ノ気ト水トヲ和スレバ、其水内ニ運行シテ、渴ヤシ、津液ヲ生ズルナリ、故ニ越婢加朮湯主之、甘艸麻黄湯亦主之ト云リ、

○水之為病、其脈沈小、属少陰、浮者為風水、无水虚脹者、為気水、発其汗即已、脈沈者、宜麻黄附子湯、浮者宜杏子湯、

サテコノ条ハ、水ノ惣論ノ如ク、同ジ水腫ノ病ニモ、脈ニヨリテ、表裏虚实ノ別ヲ辨シタルナリ、サテ水気ヲ病ム者ノ中ニ、脈ノ沈小ナル者ハ、陰ニシテ少陰ニ属スル者ナリ、浮者ハ、前ニアル風水ナリ、又无水虚脹スル者ハ、気ノ強久凝リタルヲ主トシテ、水ハ客ナレバ、按シテモ指ノ形ツカズ、

故ニ无水虚脹ト云リ、コノ虚ハ陰虚ノ虚ニアラス、水ナク
 シテ、形ノミ脹スル故ニ、水ノ无キ処ヲ指シテ、虚ト云タル
 ナリ、コレ等ハ陰陽ノ異ナル証ナレバ、皆發汗シテ已ル者
 ナリ、コノ發汗モ、前々追々云タル如ク、真ニ發汗スルニハ
 アラス、故ニ脈沈者ノ水気ハ、少陰病ノ麻黄附子甘草湯ノ
 微發其汗ト云意ヲ以テ、宜シト云リ、浮者ノ風水ハ、前ニア
 アレバ、気水ニシテ浮脈ノ者ハ、宜ク杏子湯ト云意ナリ、両方
 共ニ宜ノ証ニシテ、主之トハ云ハザルヲ、能ク心得ベシ、サ
 テ林億等ガ説ニ、杏子湯ハ、麻杏甘草湯ナラト云リ、コレ
 宜トアレバ、何レ越婢湯カ、麻杏甘草湯ノ方ナルベシ、病者
 ニ臨バ、其差別アルベキナリ、

○黄汗之為病、身体腫、發熱、汗出而渴、状如風水、汗沾衣、色心
 黄、如蘘汁、脈自沈、宜葶芎桂酒湯主之、

サテ黄汗病ノ大意ハ、己ニ凡例ニ説キ示シタレバ、コノ処
 ニ本条ヲ奉テ、方ヲ繋ギタルナリ、サテ黄汗ノ病モ、同ク水
 気病ナレバ、身体ノ腫ル者ナレバ、但瘵熱ヲ帶ビタル水気
 病故ニ、發熱アリ、汗出血分ノ衰アリテ、渴ヲナシ、身体腫ア
 ル故ニ、形状ハ風水ノ如クナレバ、其汗衣ヲ沾ス片ハ、黄色
 ニシテ、蘘汁ノ如クニナルナリ、コレ裏ノ瘵熱ニヨリテ、水
 腫ヲナス故ニ、脈ハ自ラ沈ナリ、黄葶芎蘘桂酒湯ノ主ル病
 ナリ、シカシ變化ヲ慮スル為ニ、宜トモ云リ、其心ヲ得ベシ、
 方後ニ當心煩ト云リ、コレハ苦酒ノ、胸ニコダハリタル者

ニシテ、強テ衰ヲ生ジタルニ非ズト云フヲ、断リタルトリ、シカシイツ迄モ、心煩ノ止ザル者ハ、心ヲ用ユベシ、一方ニ、姜酒醢ヲ以テ、苦酒ニ代ユト云リ、同シ酢ナレバ、姜酒ノ酸味ヲ生ジ、醢ニナリタルハ、阻ル所ヲ止ントテナラン、シカシ病ヲ除クニハ、ニツ共ニ通用スベシ、別ニ功ヲ差別スルナシ、

○黄汗之病、両脛自冷、假令發熱、此属歷節、食已汗出、又身常暮盜汗出者、此勞氣也、若汗出已、反發熱者、久々其身必甲錯、發熱不止者、必生惡瘡、若身重、汗出已、輒輕者、久々必身暈、即胸中痛、又從腰以上、必汗出、下无汗、腰體弛痛、如有物在皮中、狀、劇者不能食、身疼重、煩燥、小便不利、此為黄汗、桂枝加黄芪

湯主之、

コノ条ハ、黄汗病ヲ舉テ、傍ラ黄汗ニ似テ、非ナル病ヲ示シ、種々ノ變化ヲ見セタルナリ、黄汗病ハ、前条并ニ始ノ凡例ヲ以テ、其大体ヲ知ルベシ、水氣アリテ、發熱スル証ナレバ、氣逆上衝シテ、汗ノ出ル所ヨリ、両脛自ラ冷ルナリ、コレ黄汗病ノ内ニ、コノ両脛ノ冷ヲ以テ、他ノ証ト辨別スルナリ、假令ト云ヨリ以下ハ、種々他ノ証ヲ舉テ黄汗病ト異ナル所ヲ示スナリ、サテ右ノ両脛冷ズシテ、發熱スルハ、黄汗病ニアラズ、歷節ニ属スル病ナリ、又食シ已テ汗出、又常ニ身ニ暮方ニナリテ、寐ルト盜汗ノ出ル者ハ、又黄汗ニアラズ、勞氣ノ証ナリ、若又食後ニ汗出已テ、發熱スル者ハ、結毒ノ

証ニシテ、日月ヲ經月ヲ踰テ、愈エザル片ハ、其一身ノ津液枯
 テ、血分ガサクトシテ、絞ヲ撫ルガ如クニナルナリ、故ニ反
 發熱者、久々其身必、甲錯ト云リ、コレ汗出已テ、熱モ共ニ、和
 シ散ズルカ常ナルニ、汗出テ後ニ、發熱スル故ニ、反ノ字ヲ
 置リ、サテ右ノ如ク甲錯ニナリテモ、其發熱ノ止ザル者ハ、
 必生惡瘡ト云リ、コレ結寒アル故ニ、汗出テ津液ヲ失フニ
 從フテ、毒血燥キ結ンテ、發熱止ザルニ至レバ、其結毒熱ヲ
 釀シテ、惡瘡ヲ生ズルナリ、惡瘡トハ、一通リノ瘡膿ヨリ、一
 段毒熱ノ甚シキヲ示シタルナリ、若又水氣ニテ身重ケレ
 凡、汗出已テ、其終直ニ輕クナル者ハ、表裏裏脱ニシテ、コレ
 モ久々トテ、日月ヲ經ルト、一身ノ血和セズ、水ト、ハダクニ

ナリテ、陽氣運ラザル故ニ、必ズ身暈スルナリ、暈ハ肌肉ビ
 クトシテ動ク自ナリ、太陽上篇ノ真武湯ノ条ト、併セ考
 フベシ、コレ身重クシテ、水氣ノ運ラザル証ナレ、凡、汗出レ
 バ、輒ク身ノ輕クナルハ、水氣ヲ引シメル程ノ、陽ノカナキ
 証故ニ、陽氣汗ト共ニ漏レテ、輕クナルナリ、コノ輒ノ字、ス
 ナハチト訓ズレ、凡、夕ヤスクト、ヨムガヨシ、何ノ手間ヒマ
 入ズ、心易ク輕クナルト云義ナリ、身暈スルニ至レバ、内ノ
 血、マスキ上ニ滯リ行ラズシテ、胸中ニテ水ト俱ニ凝テ痛
 ムナリ、コレ胸痺心痛ノ病ニ、似タル者ナリ、以上假令ト云
 ヨリ、コノマデハ、黄汗ノ汗ノ出ル証ニ似テ、他病ニ變化ス
 ル所ヲ、説キ示シタルナリ、是ヨリ以下ハ、桂枝加黄芩湯ノ

証ヲ示スナリ、始ノ黄汗ノ病、兩脛自冷ト云ニ句ヲ、又コ、
 ノ從腰以上ノ句ノ上ニ、附テ見ルベシ、サテ黄汗病ハ、上ニ
 迫リテ、兩ノ脛自ラ冷テ、又脛ヨリ上腰以上ニハ、必汗出ル
 ナリ、コレ下部ニ力ナクシテ、夕々氣逆上衝シテ、表ノ氣ト
 水ト、和セザルガ故ニ、上表ニ迫リテ、下部ノ不順ナル証ナ
 リ、腰ヨリ下ハ汗ナク、腰髌弛痛セリ、腰髌トハ、腰ノ蝶ツガ
 ヒノ骨、腰臀ノ骨ナリ、其髌骨弛痛トハ、牽急シテ痛ニアラ
 ズ、弛^弛ンテ痛ムナリ、弛ハ弓ノ弦ヲハヅシテ、引ハリノナキ
 ヲ云ナレバ、腰骨ノ又ケル様ニ、痿テ痛ム心ナリ、其痛物ノ
 皮中ニ在ルヤウナル状ナリ、コレ表ノ氣血和セヌシテ、水
 気皮中ニ滞リテ、運ラザルガ故ナリ、一等劇ク迫ル者ハ、心

胸ノ氣迫モ閉テ動カズ、胸中ニ水血迫ル故ニ、劇者、不能食
 ト云リ、然レ凡表外ノ氣血和セズ、水気モ亦表外ニ滞リテ、
 下降セザル者ナレバ、身疼テ重ク、氣血上ニ迫リテ、煩燥シ、
 小便不利ヲナス、以上ノ証ハ、黄汗ニシテ、桂枝加黄芩湯ノ
 主タル証ナリ、故ニ桂枝加黄芩湯主之ト云リ、コレ黄汗モ
 他病ニ衰ズル、四種ノ病モ、根本ハ、皆百合ノ一毒ニシテ、其
 宿毒ノ動テ来ル者ナリ、故ニコノ黄汗ヲ始メ、四種ノ病ハ、
 皆結毒癰熱ヲ帯ビタルヲ察スベシ、按ズルニ髌、枯官、切音
 寬、髌上、曰髌、兩股間、又与臑同、尻也、髌也、股、骨也、又苦昆、切音
 坤、体也、髌也トアリ、髌、視追切音誰、尻也、髌也、前漢、東方朔傳、
 連、髌、尻、師古曰、髌也、博雅ニ、髌、髌也、髌、髌骨、又腰骨、又臑、髌也

古言醫傳卷一

示別車

博雅臆尻也トアリ、髓髓同シ、髓モ亦同シ、髓ト云モ同シ、何
レ髀股尻臀腰膝ノ骨ヲ云ナレバ、下部ノ骨ノ弛痛スト云
テモヨシ、

口師曰、寸口脈遲而濇、遲則為寒、濇為血不足、跌陽脈微而遲、
微則為氣遲、則為寒、々々氣不足、則手足逆冷、手足逆冷、則榮衛
不利、榮衛不利、則腹滿脹鳴、相逐氣轉膀胱、榮衛俱勞、陽氣不
通、即身冷、陰氣不通、即骨痛、陽前通、則惡寒、陰前通、則痺不仁、
陰陽相得、其氣乃行、大氣一轉、其氣乃散、實則失氣、虛則遺尿、
名曰氣分、

コノ条ハ、氣分ノ水氣ヲ舉ゲ示シ、シガ為ニ、先其氣分ノ虚
寒ヨリ起ル所以ト、陽氣ノ不足スル所以ヲ辨明セリ、コレ

始ノ血分ノ水氣ノ、次ニ置ベキ凡例ナレ、凡、次ノ本条ノ氣
分ト、又其次ノ氣分ニ非ル、水氣トノ二条ノ前ニ、置サレ
バ、主意ヲタシカニシ難キトモアレバ、次ノ氣分ノ主意ヲ
辨明シ易キヤウニ、コ、ニ出シタルナリ、読ム者コノ意ヲ
以テ見ルベシ、サテ寸口ノ脈ノ遲而濇ナルヲ察スルニ、遲
ハ陽氣行ラズシテ、虛寒ノ者ナリ、故ニ遲則為寒ト云リ、濇
ハ陽氣行ラズシテ、虛寒ニナレバ、陰血モ運行スルヲ能ハ
ス、濇リ滯リテ、一身ノ榮養ヲナスニ不足ナリ、故ニ濇則為
血不足ト云リ、コレ血ノ不足スルハ、陽氣ノ衰乏シタル故
ナリ、サテ跌陽ハ、足ノ甲ノ脈ニシテ、胃ノ氣ヲ候フ部位是
ナリ、其脈ヲ候フニ、指ヲ輕クスレバ微ナリ、重ク按セバ遲

古川醫傳卷一

四

規川千載

ナリ、コレ胃ノ部位ノ脈ノ微ナルハ、胃氣ノ衰乏シタルナリ故ニ微則為氣ト云リ、遲ナルハ、寸口ト同ク虚寒ナリ、故ニ遲則為寒ト云リ、サテ寸口ノ遲而瀦ト、跌陽ノ微而遲ナルト合シテ、寒氣不足ト云リ、コノ寒ハ、遲ノ脈ノ虚寒ノ候、氣ハ、微ノ脈ノ、胃ノ氣ノ衰乏シタル候、不足ハ、瀦ノ脈ノ血不足ノ候ナリ、コノ三ヲ合シテ、寒氣不足ト云タルナリ、陽氣運ラズ、胃氣衰乏シ、内虚寒ニシテ、血不足スル時ハ、手足逆冷ス、手足逆冷ノ四字、一ノ証候ナリ、手足逆冷ニ至レバ、氣血ノ不順ナルヲ知ルベシ、故ニ榮衛不利ト云リ、榮衛不利スル并ハ、内外ノ氣血俱ニ運行ヲ失シ、胃氣衰亡、血不足シテ、腹滿脹鳴スルナリ、コノ腹滿ハ、太陰ノ腹滿ト同ク水

血ノ和セザルナリ、故ニ腸ノ水雷鳴スルナリ、腹滿脹鳴モ、六ノ証候ナリ、サテコノ腹滿脹鳴ハ、実証ニアラズシテ、寒氣不足ヨリナス所ナレバ、脹鳴ノ氣、相逐テ膀胱ニ轉ズレ、凡、氣血共ニ疲勞シテアレバ、陽氣ノ通ジテ、膀胱ニ轉スルニアラズ、故ニ陽氣不通、即身冷ト云リ、コノ身冷モ、一ノ証候ナリ、陽氣通ゼズシテ、身冷ナルノミナラズ、血不足ノ証ナレバ、陰氣モ通ゼサルナリ、故ニ血モ通ゼズシテ、即骨痛スルナリ、コノ骨痛モ、六ノ証候ナリ、コレ陽氣陰氣ト云ニ、内外ノ出入開闔ノ不通ナルヲモ、含ミタルト知ルベシ、陰陽俱ニ會通セザル故ニ、陽氣獨リ前ニ通ゼントスレ、凡、陰氣俱ニ和合セズ、陰血ノビザレバ、陽氣ノミ通ズルヲ

能ハザルニ陽氣獨リ通ズルガ故ニ陰血ノ為ニ真ノ通行
 ヲ得ズシテ惡寒ヲナスコレ虚脱ノ惡寒ニシテ陽前ニ通
 ジテモ陰血ヲ行ラズカナキ故ニ水血ノ為ニ陽氣行ラズ
 シテスル惡寒ナリコノ惡寒モ亦一ノ証候ナリサテ陰血
 ノビントスレバ陽氣和合シテ運行スルカナキ故ニ血分
 瀦リテ血ノ用ヲナサズコレ痺不仁スル所以ナリコノ痺
 不仁モ亦一ノ証候ナリ夕タク陰氣陽氣相得テ通スル
 アレバ其氣乃行ルナリコレ實ニ陰陽會通順接ヲ得タル
 ニアラス暫ク陰陽ノ相得ル時ノアルナリ病中ノ差引ニ
 シテ必死ノ証ニ非ル故ニ暫時ノ會通ノ面影ニシテ真ノ
 快復ニハアラス故ニ痺不仁惡寒ヲ始トシテ外ニアラハ

レタル証候ハ一モ不解然レバ暫クニテモ陰陽相得レバ
 病ハ退カズトイヘバ暫時惣身モ氣ノ行リヲ得ルナリ故
 ニ大氣一轉其氣乃散ト云リ暫時陰陽相得ニ因テ大氣一
 轉スレバ退陷シテ宜通セサル所ノ惣身ノ氣モ乃チ散ズ
 ルナリ氣散シテモ真ノ會通ニアラス夕タ虚寒ノ氣ノ聚
 リタル所ノ散シタルナリサテ其大氣ノ散ズル時ニ虚
 實ノ差別アリ實則失氣トハ下刺ノカ、ル真ノ邪實ニハ
 アラズ暫ク腹滿脹鳴ノ氣膀胱ニ相逐テ轉シ肛門ニ向テ
 取りハツスナリコレ腸胃ノ氣下泄シテ失スルナリコレ
 モ一ノ病状ナリ虚則遺尿トハ元來陽氣微乏ニシテ虚寒
 血不足ノ証ナルニコノ上ニ虚スル片ハ下部ヲ行ラス陽

気ナキ故ニ遺尿スルナリ、已上手足逆冷、腹滿、腹鳴、身冷、骨痛、惡寒、痺不仁、失気、遺尿ノ証候ヲ、一々計スルニ、皆陽気ノ運行セザルヨリ、起リタル者ナレバ、名曰気分トアリ、コレガ為ニ水飲滯リテ、水気ヲ病ム者ナリ、コレ前ノ血分ノ水ニ對シテ、気分ノ水ナリ、

○気分、心下堅、大如盤、邊如旋杯、水飲所作、桂姜艸枣黃辛附湯主之、

コレ前ノ条ノ凡例ヲ受テ見ルベシ、コノ気分ハ前条ノ由来ヲ因トシテ、診スベキ一ヲ、気分ノ二字ニ會ミ、次ノ枳朮湯ト、同シ病状ナレバ、証候ノ異ナルヲ以テ、藥方モ亦異ナルヲ、知テシメタルナリ、サテ心下堅クシテ、按スニ其大サ

盤ノ如シト云リ、コノ盤ハ盛物ノ器トアリテ、凡テ平タクシテ、物ヲノセテ、人ニ出ス器ナリ、小説ノ俗語ニ、和盤托出ナド、アリテ、一切ノ銘々盆ノ類ナリ、コレ心下ノ堅キ一、盤ノ大サノ如ク、邊ハ其グルリナリ、旋杯トハ、杯ヲ覆フタルカ如キナリ、杯ト盤ト、少シ大小アレバ、水飲ノ心下ニ凝結シテ、堅実ナルヲ形容シタルナリ、以上水飲ノナラズ、所ナレバ、前ノ凡例ノ手足逆冷、腹滿、腹鳴、身冷、骨痛、惡寒、痺不仁、失気、遺尿等ノ病状ヲ、以テ見ルニ、陽気ノ虚乏ナルヲ主トシテ、血分ノ瀦ルヨリ、コノ水飲ノ變ヲ、生シタル証ナレバ、其水飲ヲ目當トセズシテ、陽気ヲ行ラシ、一身ノ水ヲ、運行サスル様ニスレバ、心下ノ堅凝セシ水飲ハ、自ラ和スルナ

故ニ桂姜艸黄辛附湯主之ト云リ、コノ方名ヲ論注并
 ニ医宗金鑑、新刻ノ坊本ニ至ル、テ桂枝去芍薬加麻黄附
 子細辛湯ト改メタリ、桂枝去芍薬湯ニ麻黄附子細辛湯ヲ
 合シタルニ違ハナケレ、凡加ノ字穩カナラズ、古本ニ桂姜
 艸黄辛附湯トアルハ、古名ニシテ殊ニ称シヤスク、古雅
 ナル方名ナリ、故ニ古名ニ從フテ称スベシ、治療ノ為ニハ
 凡用ナレ、凡古ニ從フガ、萬事ノ禮義ナレバ、改ルハアシ、
 ト知ルベシ、又心下ノ堅ナク、水気一身ニ不順ニシテ、痺不
 仁シ、膝胫等モカタク、歩行シ難クシテ、全ク脚気ノ様ニ見
 エレ、凡八味丸ノ証ニモアラズ、脚弱ノ越婢加朮湯ノカ、
 ル証トモ見エズシテ、水飲行ラズ、痺ノアル者ハ、コノ方ノ

主ル所ナリ、又俗ニ云癰毒家ノダシク、疲労シテ、骨痛トナ
 リ、起居動作モナリ難ク、一身疼痛シテ、腹滿シ、或ハ手足不
 仁、厥冷スルニ用テ、往々功ヲ得タリ、コレ風湿歴節ニ似テ、
 熱ヲ帯ビザル者ナリ、前ニアル桂枝加黄芩湯ノ熱ノナキ
 証ト思フベシ、コノ中ニ桂枝加朮附湯ノ証ト、コノ条ノ証
 ト、似テ又非ナル処アリ、ヨク考テ辨明スベシ、方後ニ、當汗
 出、如虫行皮中、即愈トアリ、然レ、凡陽氣ノ復スルニ随テ、水
 血和シテ、汗ナクシテ、愈ル者モアリ、又虫ノ皮中ヲ行クガ
 如キハ、夕マクアレ、凡人々カヤウニナルニ極リタルハ
 ナシ、コレ志心得テ、病人ヲ診スベシ、
 ○心下堅、大如盤、邊如旋杯、水飲所作、枳朮湯主之、

コレ上ノ条ト、病状同クシテ、証ノ異ナル者ナリ、病ト証トノ差別ヲ、明カニセザレバ、コノ病者ニ向フタル時、桂姜艸、朮、黄辛、附湯カ、枳朮湯カト云決定ハ、何ヲ以テカスベキヤ、惟両方ヲ用テ、當リタル方ガ、ヨシトノミ心得テ、始ヨリ明ラカニ、方ヲ處スル人稀ナリ、書ニ筆シテ、今日マテモ傳來セル故ニ、気分ノ証ト、コノ条トハ、明白ニ辨別シテアレド、今病人ニ對シテハ、診別スルヲ難シ、故ニ余三十年来、コノ處ヲ慚愧シテ、八条目ヲ立テ、以テ其虛実陰陽、并主客等ヲ辨明シテ、コレハ病、コレハ証ト云フヲ、少々バカリ、明ラムルヲ得タリ、コノ二个条ハ、同病異証ニシテ、藥方ノ大ニ違ヒタルヲ、實ニ病者ニ對スル明鏡ナリ、飲テ敬戴スベシ、

コノ条ハ、前ニ辨ゼシ如ク、水飲主トナル故ニ、枳實ニテ、心下ニ堅凝シタル水ヲユルメ、朮ヲ以テ、其水ヲ利スルナリ、コレ水飲ノ作ヌ所ニ、相違ナクシテ、主客ノアルヲ示シタルナリ、凡テ緯篇ニハ、病状ヲ挙ゲテ、何湯主之、何湯亦主之トアル處、前後篇ニ多シ、皆コノ二个条ノ意ナリ、コノ二ハ、詳カニ舉ケテ、餘ノ篇ニハ、畧シタルナリ、方後ニ、腹中更^ト即當^ニ散トアリ、コレ水飲ノ凝結^ト更^カニナリテ、和散スル功能ヲ、示シタルバカリニアラズ、腹中ノ字ニテ、腹ノ水飲ヲ目當トシ、前条ハ汗出ト、虫行皮中トニテ、外表ノ陽気ヲ行ラヌヲ、目當トセリ、コレ亦各主タル所ニ、目ヲ着ケサスルノ意アリト知ルベシ、

△附方、外臺、防己黃芪湯、治風水脉浮、為在表、其人或頭汗出、表无他病、々者但下重、從腰以上為和、腰以下當腫及陰、難以屈伸、

コレ本条ノ防己黃芪湯ノ証ノ風水ノ少シノ轉變ナレバ、同ジ方ノカ、ル所ヲ、外臺ニ示シタルバ、附方トナシテ、本条ノ活用ヲ見スルナリ、サテ本条ニアル通り、風水ニテ脉ノ浮ナル者ハ、水氣ノ表ニアル者ナリ、然ルニコノ条ハ、頭汗ノ出ルヲモアリ、又出ザルヲモアリ、故ニ或ト云リ、其人ト云ハ、コノ頭汗ノ出ルハ、外ノ病ニモ多キ故ナリ、コレ表ニアルベキ風水ノ証カト見レバ、表ニ他病ナシト云リ、コレ本条ノ一變シタル所ナリ、サテ其病者、夕、下部ニ水氣

アリテ重ク、腰以上ハヨク和シテ、病患ナク、腰ヨリ以下腫テ、陰莖陰囊ニ及ビ、足脛腰膝ノ、ノヒチバミアシクナル者ナリ、コノ下重ハ、泄利下重ノ、イキヅム者トハ異ニシテ、上ニ變ナク、下ニ腫アリテ重ク、第一ニ腰ノ屈伸ノナリ難キ者ナリ、コレ表水ノ者ナレバ、一變シテ、下部ノ腫ルニ至ル証ナリ、然ラバ証ヲ轉ジタルカト云ニ、夕、病状ノ、轉ジテ、本方ノ証ハ、少シモ變セズ、コレ上ノ二个条ノ、病状同フシテ、証ノ異ナルニ對シテ、病状異ニシテ、証ノ同ジキヲ、外臺ヲ引テ示シタルナリ、コノ条ハ、表ニアルベキ所ノ風水脉浮ノ者ナレバ、表ニ病患ナク、氣上ニ逆シテ、頭汗ノ出ルヲアレバ、下部ノ氣モ、皆上ツリニナリテ、反テ下ノ氣ノ不

順ナル所へ、水気夕マリテ、下重ク、腰以下陰部マデモ腫テ、
 屈伸ノナリ難キ者ナリ、上表ニ和セザル処アレバ、病者モ
 覚エズ、医者モ急度目當トスル処見エズ、故ニ或頭汗出ノ
 一証ニテ、上逆シテ、其上逆ノ為ニツリ上ラレテ、下重ヲナ
 スヲヲ、知ラシメタルナリ、夕トヒ頭汗无トモ、上逆ノ為ニ、
 下ニ水気夕マリテ、腫ヲナスト云フヲ、示シタルナリ、故ニ
 コノ頭汗出ニ、或ノ字ヲ入タルハ、學者ニ示スノ意、大ニ深
 切ナリ、太陽下篇ノ、火逆ノ凡例ノ、四个条目ニアル、脈浮宜
 以汗解、用火灸之、邪无從出、因火而盛、病從腰以下、必重而痺、
 名火逆也トアル証ト同ク、火ニ因テ盛ナル邪ナレバ、上逆
 ノ甚シキヲ知ルベシ、然レバ病ハ、腰以下ノ重、而痺スルナ

レバ、証ト病トノ上下ノ差別、コレニテ併セ考テ知ルベシ、
 又結胸ノ部類ニ、心下ヨリ小腹ニ至ルマデ、鞭滿而痛、不可
 近者ニ、大陷胸湯ヲ与エタルト、同ジ病理ナリ、コノ附方ノ
 活用、実ニ妙ナリト謂ベシ、

己上、水気病篇、凡例本条附録、通計二十五个条、水気ノ部類
 ヲ悉ク辨ジ、傍ラ血分気分ノ水気迄ヲ、辨明セリ、実ニ全備
 シタル篇ト云ベシ、但凡例ニハ、心水石水ノ名ノミアリテ、
 本条ニハ、二水ノ病名ヲ举ズシテ、裏水トノミ云タル処、少
 シク缺漏アルニ似タリ、然レバ心水石水ノ病状ヲ辨ジテ
 凡例ニアレバ、治方ハ、其病者ニ對シタル時、八条目ヲ推明
 メテ處スル片ハ、全ク缺残トモ云難シ、読者察諸

Handwritten text in vertical columns on the right page, including the characters '瘡' and '疽'.

○辨黃疽病脉證并治法第十六

Main body of handwritten text on the left page, discussing medical conditions like 黃疽, 瘡, and 癰, and their treatments.

女勞ノ因ナクシテ、其人ノ宿ニテ、胃熱ノ鬱シテヨリ、宿毒相混シテ病ム者ナリ、コレ亦百合ノ一毒ノ変化ニ由ル者ナリ、

口、跌陽脈緊而數、々則為熱、々則消穀、緊則為寒、食即為滿、寒熱相搏、食穀即眩、穀氣不消、胃中苦濁、々氣不流、小便不通、陰被其寒、熱結膀胱、身體尽黃、名曰穀疸、額上黑、微汗出、手足中熱、薄暮即發、膀胱急、小便自利、名曰女勞疸、腹如水狀、心中懊懣而熱、不能食、時欲吐、名曰酒疸、

夫發黃ノ証ハ、惣論ニ云タル如ク、瘧熱寒濕等ノ証アリテ、種々ノ變化アレバ、先コノ凡例ニ述ル所ノ、三種ノ中ニ皆コモレリ、タトヒ三種ノ外ノ黃疸アリバ、コノ三種ノ理ヲ

以テ推ス片ハ、皆ソノ証ヲ辨明スルニ足レリ、故ニ黃疸病ノ始ノ凡例ニ、三種ノ辨別ヲ示シタルナリ、サテ跌陽ハ、コレ追々説キ示シタル如ク、胃ヲ候フ脈ナリ、其脈ノ緊ニシテ數ナルハ、胃中ニ熱アリテ、頻リニ飢テ、穀ヲ消スルヨリ、胃上胸中ニ、寒トテ堅凝スル所アリテ、食スレバ胸腹共ニ滿スルナリ、コレ緊ノ脈ハ、胃ノ上外ニアリ、故ニ緊而數ト、而ノ字ヲ入テ、部位ノ上下ヲ別テリ、數ハ胃中ニ熱アル脈、故ニ消穀ナリ、コノ寒熱ノ緊數ノ脈、相戦フテ、穀ヲ食スレバ眩ス、コレ胃中ニ熱アリテ、穀ヲ消ストイヘバ、胸中ニ滯ル處アル故ニ、食ヲ入ルト、胃熱ト、胸中ノ寒凝シテ滿スル處ト、相搏テ眩ヲ發スルナリ、胃中胸中共ニ熱アリ滿ア

リテ、此ノ如クニ眩暈スルナリ、故ニ穀氣消化セズシテ、胃中苦濁ナリ、此苦ノ字ハ、食穀即眩ト云、病患ノ意ヲ以テ見ルベシ、其胃中ノ濁、下膀胱マデモ及ンデ、熱ヲ凝結サスルナリ、坊本ニハ濁氣下流トアリ、濁氣下流スレバ、胸中及ビ胃中ノ熱ノ、下降シテ和スルニ疑シ、故ニ下ノ字ヲ、不ノ字ニ改メテ、胃中ノ濁氣、下降セズシテ、其濁熱ノ餘波、下ニ及ンデ、小便不利ヲシタリ、陰血モ、亦其濁氣ノ熱ノ為ニ寒ラレテ、膀胱ニ熱ヲ結ズヨリ、身体尽ク黄色ヲ発スルヲ、名ケテ穀疸ト曰ナリ、コレ趺陽ノ脈ノ緊而数ナルヲ診シテ、寒熱相搏ヨリ、身体尽ク黄マデ、皆胃中ノ穀物ノ為ニ、小便不通ニ至リ、上ニ滯ル処出来テ、水飲ヲアツメ、下膀胱ニ熱ヲ結

ンデ、水穀ト交々爵蓋シテ、発黄スル故ニ、名曰穀疸ナリ、サテ又額上黒ク、惣身ニ微汗出、手足ノ中皆熱シテ、薄暮ニ其熱ノ発スル勢強ク、其上ニ膀胱寧急シテ、小腹ノ処、堅ク引ハル故ニ、水氣ヲ留ムルカト思ヘバ、小便ハ自利シテ、ヨク通ズ、コレハ水穀ノ滯リテヨリ、ナス所ノ穀疸ニハアラス、秘戲過度シテ、精液ヲ燥シ、血分爵シテ、上逆スル所ヨリ、額上黒クナリ、血熱内ニ爵シテ、和セザルガ故ニ、手掌足心俱ニ熱ス、コレ陰血ノ蒸熱ノ証ナレバ、陽氣ノ内ニ潛ム時刻ニナレバ、其熱動キ発シ、小腹引ハリテ、水氣ハヨク運行ス、故ニ薄暮即発、膀胱急、小便自利ト云リ、小便ハ自利シテ、水氣ハ滯ラザレバ、血熱内ニ蒸セテ、精液ノ潤ヒヲ亡シタル

ヨリ、スル発黄ナレバ、名テ女劳疸ト云ナリ、コレ所謂陰虛
 火動ノ発黄ナリ、俗ニ云腎虛ノ証ヨリ、発スル黄疸ナリ、升
 テ又腹脹シテ、形ハ水気病ノ如ク、心中懊懐シテ、心中熱シ、
 食スルヲ能ハズシテ、ヲリク吐セント欲スルハ、コレハ酒
 ヲ過飲シテ、心胸中ニ鬱熱ヲ生ジ、水飲運行ヲ失フ、故ニ腹
 ハ水気病ノ形ノ如クニナリテ、心胸ノ熱ノ為ニ、ヲリク吐
 セント欲スルナリ、コノ吐ハ、始終アルニアラズ、故ニ時ト
 云リ、コレヲ名ケテ酒疸ト曰ナリ、コノ証ハ、酒毒鬱シテ、心
 胸ニ迫リ、熱ヲ生ジテ、発黄スル者ナリ、以上ノ三種、部位各
 異ナリ、穀疸ハ、胃中中焦ノ部位、女劳疸ハ、下焦膀胱ノ部位、
 酒疸ハ、上焦心胸ノ部位ナリ、各異ナル所アリテ、発黄スル

所ハ一ナリ、コレヲノ義ヲ以テ、一切ニ部位ヲ辨別スベシ、
 コノ条ハ黄疸ノ惣凡例ナリ、

口夫酒黄疸、必小便不利、其候、心中熱、足下熱、是其證也、

發黄ノ症ハ、酒客ニ多キ者ナレバ、先ツ酒疸ノ凡例ヨリ、舉
 ゲ示スナリ、夫酒客ノ黄疸ハ、前条ニアル如ク、腹水状ノ如
 クナレバ、多クハ腫氣ノアル者ナリ、コレ小便ノ不利ヨリ、
 腫ルナリ、其候、心胸中ニ鬱熱アル者故ニ、心中熱ト云リ、其
 熱血分ニ入ル者多シ、故ニ黄色ヲナス、心中熱スル者ハ、其
 熱下部ニモ及ブ、故ニ足下熱スルナリ、是酒黄疸ノ証ナリ、
 其証也ト云ハ、必小便不利ヨリ、足下熱ニ至ル迄ノ病状ハ、
 コノ酒疸ノ証概ナリト云意ナリ、

口酒黃疸者、或无熱、謔言、小腹滿、欲吐、鼻燥、其脈浮者、先吐之、沈弦者、先下之、

同シ酒黃疸ニモ、熱ノナキ者モアリ、熱ナシトテ、陰証虚脱ニハアラズ、夕ニ熱ノ外ニ頭發セザルノミニシテ、内ニ深ク熱ヲ伏スル故ニ謔言ヲナシ、其謔言スル熱ノ所在、陽明病ノ部位ヨリ、一等下ナルガ故ニ、小腹滿ト云リ、小腹滿モ、熱ト共ニ水ヲ貯ル者ナレバ、其熱心胸ニ上衝シテ、謔言スルノミナラズ、欲吐ノ病状アリ、其上熱氣ノ上迫ニテ鼻燥クナリ、鼻ノ燥ク者ハ、何レ内熱ノ上行スル証ニシテ、表証ニアラズ、表証ニ非ズトイヘ、凡、脈ノ浮ナル者ハ上部ニアル証ニシテ、上而裏ナレバ、吐スベキ規則ノ者故ニ先吐之

ト云リ、コレ吐シテ後ニ、変化センモ計リ難シ、故ニ先ノ字ヲ置テ轉寢シタル後ノ病ニ、及ボス意ナリ、又沈弦ナル脈ノ者ハ、コレハ先下之ト云リ、コレ下而裏ナレバ、下劑ノ規則ナレバトナリ、コノ先ノ字モ、上ト同シトナリ、サテ謔言、小腹滿ノ証ヲ察スルニ、内ニ実シタルハ、明カナレ、凡、沈弦ノ脈ハ、裏実ニシテ、急度下劑ノ証トモ思ハレズ、コレ沉実ノ脈ヲラバ、下劑ノ証ナレ、凡、弦ハ、弓ノ弦ヲ按スガ如クニシテ、底ニカノナキ脈ナリ、故ニ謔言アリトテモ、急度下スベキ証トハ云ヒ難シ、然レ、凡、コノ証ハ、欲吐鼻燥キ、脈浮ノ吐スベキ証モアル者ナレバ、其裏実ノ下劑ヲカクベキ、沈ノ脈ニ少シク上ヅリニナル勢ヲ帶テ、弦ナルナリ、コレ引

張リテ底ニカクノナキニハアラス、底一カノアルベキ証ナ
ガラ、少シ欲吐鼻燥ノ証モアレバ、実証ノ中ニツリ上ラレ
テ、沈ノ脈ニ、弦ヲ帯ビタル者ニシテ、ヤハリ下劑ノ証ナリ、
コレラノ脈ハ、ヨクク心ヲ潛メテ、診察シタル上ニテ、病証
ト併セ比シテ、虚実ノ中ノ、虚実ヲ察スベシ、コレ医タル者
ノ大事ノ辨別ニシテ、実ニ秘中之秘ナリ、

□酒疸、心中熱、欲呕者、吐之愈、

コノ条ハ、上ノ条ノ脈浮ノ者ト、同証ニシテ、酒疸ニテ、心
胸
中ニ、水飲ヲ貯エテ、熱ヲ生ジタル者ナレバ、水ト熱トノ勢
ノ上逆シテ、呕セント欲スル者ナリ、故ニ其呕セント欲ス
ル勢ニ乗ジテ、吐サスレバ、胸中ノ熱ト水ト和シテ愈ル者

ナリ、若コノ証ニ、呕セント欲スル証ナキ片ハ、妄リニ吐劑
ヲ与フベカラス、其脈証ニヨリテ、下劑ノカ、ル証モアレ
バ、コレラノ義モ、一切ノ病証ニ及ボシテ、心ヲ尽スベシ、
□酒疸下之、久久為黑疸、目青面黑、心中如噉蒜薑狀、大便正
黑、皮膚爪之不仁、其脈浮弱、雖黑微黃、故知之、

コレハ酒疸ヲ下シテヨリ、變ジタル証ヲ示スナリ、酒疸ハ、
下劑ノ証モアレバ、下シテ誤リニハ非レバ、下劑ニテ水気
カル、故ニ、日月ヲ経レバ、其色黒クナル、コレハ一種宿ニ
瘀血ノ毒アリテ、平生ニ瘀熱アルノミナラズ、元來酒疸ヲ
患ル所ノ、酒客ナレバ、膏粱ニ飽キテ、其瘀毒ヲ培養シテ、一
身ノ血ノ、粘滑ニナリタル者ナレバ、下シテモ、一旦ノ勢ノ

クヂケルノミニテ、瘰癧ハ和セズシテ、黒疸トナリタルナ
 リ、目青、面黒、皆瘰癧毒血爵ノ所為ナリ、コレ常ノ血ニテモ、
 少シ打撲シテ、凝結スレバ、卞ニ黒クナルヲ以テ察スベシ、
 元來酒疸ハ、心中熱シ、懊懣シ、欬吐シテ、皆心胸ニ迫ル証
 ナルニ、下シテ益、心中ニ迫リ、ソノ上、痛ヲ生ジテ、其痛ノ形
 状、蒜薑ヲ噉ムガ如キナリ、蒜ハ大蒜、和名ニシニク、薑ハ漬
 物ノ類ニシテ、薑漬、薑菁、薑蘗ヲ始トシテ、火熟セヌ塩漬ノ
 物ヲ云、コレ皆噉ム片ハ、ガリクト齒ギレノスル物ナレバ、
 心中ノ痛ヲ形容シタルナリ、前ノ五藏風寒積聚病篇ノ、心
 中寒ノ条ニ、其人苦病心、如噉蒜状、劇者、心痛徹背、々痛徹心
 ト云タルト、同シ意ナリ、併セ考フベシ、サテ内モ瘰癧血莖セ

テ、大便マデ正黒クナリ、一身ノ肌膚不仁トテ、爪ギリテモ
 覺エナシ、其脈浮弱トハ、下劑ノ後、陽氣衰乏シテ、瘰癧毒敗血
 トナリ、一身内外共ニ、敗血ノ色ヲアラハシテ、黒クナル証
 ナレバ、実瘰癧ニアラザルヲ示シテ、其脈浮弱ト云タルナリ、
 コノ証ハカヤウニ黒シトイヘ、凡、黒疸ト疸ノ字ヲ付タル
 訣ハ、微シク黄ヲ帶ルヲ以テ、疸ナルヲ知リタルナリ、故
 ニ雖、黒微黄、故知之ト云リ、
 口師曰、病黄疸、發熱、煩喘、胸滿、口燥者、以病發時、火劫其汗、兩
 熱所得、然黄家所得、從湿得之、一身盡發熱、面黄、肚熱、熱在裏
 當下之、

コノ条ハ、火劫ヨリ發黄スル者ヲ示セリ、サテ病黄疸ニシ

テ、發熱アリ、氣迫リ水迫リテ、心胸以上ニ凝テ、煩喘ヲナシ、
 胸滿ヲナシ、口ノ燥ク者ハ、コレ發病ノ時、火ニテ劫カシテ、
 汗ヲ發セシヨリ、邪熱ト火氣トノ、兩熱鬱蒸シテ、コノ黃疸
 以下ノ病状ヲアラハセリ、コレ太陽下篇ノ火劫ノ処ニ、委
 ク説キ示シタリ、併セ見ルベシ、コレハ火逆ノ發黃ナレ、
 黄色ヲ發スル僻ノアル者ハ、火逆ノミニ限ラズ、何病ヲ受
 ケテモ、發黃スル者ナリ、故ニ黃家ト云リ、コノ家ノ字ハ、黃
 ヲ發スベキ、持前ノアル者ヲ云、其持前ノアル者ハ、湿氣痰
 汁ノアル人ニシテ、少シノ邪氣ヲ受テモ、發黃スルヲ云、其
 病者ハ、一身尽ク發熱シ、面色黄ミ、肚熱スルナリ、コレ肚ノ
 熱スルハ、裏ニ痰熱ノアル者ナレバ、下スガ、アタリマエ也

ト云リ、コレ火劫ノ發黃ト、宿疾ノ痰汁ニテ、發黃スルトヲ、
 示シタルナリ、コノ肚ノ字ハ、腹ト同ジナレ、凡、集韻ニハ、
 胃也ト云リ、正字通ニハ、俗呼曰肚トアリ、コレ俗ニ腹ヲ肚
 ト云義ナリ、博雅ニ、胃謂之肚トアリ、胃ノ字、胃ノ古字ナリ、
 皆胃ヲ以テ肚ト云、凡ハ、肚熱ハ胃熱ナリ、之ヲ下シテ當ル
 一、實ニ符合セリ、韓退之ガ詩ニ、腸肚鎮、煎燭ト云リ、コレ腸
 胃ト云ル意ナランカ、考フベシ、

口脈沈、渴欲飲水、小便不利者、皆發黃、
 コレ裏熱ノアル者ニシテ、其熱内ニ鬱シテ、外ニ發セズ、故
 ニ脈沈トナリ、又渴欲飲水ナリ、然レ、凡、小便ヨク通ズル凡
 ハ、渴スルノミナレ、凡、渴シテ飲ム所ノ水裏熱ニ蒸合シテ、

發黃ヲナスナリ、コレ脈ノ沈ナルガ目當ナリ、本条ノ茵陳
 五苓散ノ証モ、脈ノ浮ノミニアラズ、コレラノ水氣ノ伏シ
 テ、黄ヲ發スルハ、茵陳ノカ、ル所ナド、能々工夫スベシ、
 □腹滿、舌痿黃、燥不得睡、屬黃家、舌痿、疑作身痿、○痿當
作萎、正黃、无間色也
 コノ条ハ、腹滿ヲ以テ、胃熱アリテ、水ヲ推シ出ス勢ノアル
 ヲ示シ、サテ舌ノ痿黃ナルハ、胃熱ノ心胸ニ、上熏スル証ナ
 リ、舌痿黃ナレ、凡、若滋潤ノアル者ナラバ、熱ハ虛熱ナルベ
 ケレ、凡、燥テ其上ニ、其熱上熏シテ、氣下ニ靜定ナラズシテ、
 不得睡、コレ水氣行ラズシテ、胃熱アリテ腹滿シ、其熱上行
 シテ、舌色痿黃トナリ、乾燥シテ、睡ルコトヲ得ザル者ハ、面目
 ニ發黃ノ所ハ、未ダ見エザレ、凡、黃家ノ部屬タルコト、明ラケ

細注ニ舌痿ヲ身痿ニ作ルトアリ、身痿黃ニシテ燥ノト
 ハ云ベカラス、ヤハリ舌ノ字ノ方穩カナリ、
 □寸口脈浮而緩、浮則為風、緩則為痺、々非中風、四肢苦煩、肌
 色必黃、瘧熱以行、

コノ条坊本ニハ首条ニアリ、然レ凡、外邪ヨリ發黃スル者
 ナレバ、コノ篇ノ主タル凡例ニアラズ、故ニコ、ニ移シテ、
 陽明病ノ前ニ序テタリ、読ム者其意ヲ得ベシ、サテ寸口ノ
 脈浮而緩ナリ、浮ハ氣ノ動搖ニツレテ、外邪内發俱ニ風夕
 ルコトハ、前篇ノ中ニ追々説キ示シタリ、又下部ト、指ヲ重ク
 取りタル処ト、脈ノ緩ナルハ、血分ノ運行ノヌルケタル者
 ニテ、水氣モツレテ、和セザル者ナリ、コノ脈ハ、太陰篇ノ凡

例ニアル、病人脉浮而緩、手足自温者、當發身黃トアル者ト、
 同ジ脉ニテ、發黃スベキ証ナルヲ、知ルニ足レリ、コレ氣
 外ニ動搖シテ、血内ニ痺スル所ヨリ、肌色必ズ黄色ヲ發ス
 ルハ、風ト痺トノ變ニテ、瘧熱肌表ヲ行クルガ故ナリ、故ニ
 肌色必黃、瘧熱以行ト云リ、時ニ痺非中風、四肢苦煩ト云ル
 ハ、コノ証ノ緩脉ノ痺ヲ辨シテ、中風類ノ風痺ノ証ノ、四肢
 ノ苦煩スル者ト、異ナルヲ辨ジタルナリ、按スルニ論注
 ニ、コノ条ノ痺ノ義ヲ辨別セリ、コノニ奉テ、學者ニ示ス曰、
 上畧挾風寒于外、則為痺、挾熱邪于内、則為疸、一定不易之理
 也、仲景于是先明其脉証、以別之、如寸口脉浮而緩者、何故、浮
 者、風也、緩者、痺也、痺之為義、原取乎凝聚貼伏、風之為邪、原屬

乎流走動蕩、故脉浮者、風象也、而脉緩者、痺象也、但痺有痺于
 分肉者、有痺于榮衛者、有痺于軀殼之内、胸膈之間者、痺于血
 分者、痺于氣分者、痺于分肉者、則痛痺周痺之類也、痺于榮衛
 則中風四肢苦煩之類也、痺于血分、血痺之類也、痺于軀殼之
 内、胸膈之間者、胸痺之類也、痺于氣分、黃疸是也、痺雖同、而痺
 之所在不同、其証亦因之迥異、此立名辨証者、不可不詳察也、
 然何以疸病、又屬之痺、疸者、痺之發見、痺者、疸之根維也、必有
 寒湿之邪、痺着于氣分、為候、日久變熱成瘵、鬱而不開、莖為黃
 色、使脾家正色、因熱外見、此疸病之色黃、為脾色、而疸病之湿
 邪、即熱之由来也、故仲景首標于疸病之前、以示人、知其端倪
 云爾トアリテ、痺ヲ分辯シタルヲ、大ニヨシ、サテコノニ脾

色必黄トアルハ、肌ノ字ノ偽誤ナリ、夫レ脾ノ正色ハ、五色ニ配スレバ、黄ニ當ルノミニシテ、无病ノ時ノ肉色是ナリ、病ニ至テハ、常ヲ失シタル者ナレバ、何ゾ脾ノ正色ガ、発シテ黄疸トナラシヤ、タゞ熱ノムセテ、肌表ノ色ノ黄ム者ナリ、故ニ脾ヲ肌ニ作りタリ、見ル者トクト、心ヲ致スベシ、
 □陽明病、脉遲者、食難用飽、々則発煩、頭眩、小便必難、此欲作穀疸、

コレ自発ノ陽明病ノ、脉ノ遲ナル者ハ、大承気湯ノ証ナルヲ、経篇ニ詳カナリ、其胃中ニ熱実シタル者ハ、十分飽マデ食スルヲ、ナリニクキ者ナリ、若シ十分飽マデ食スルハ、煩ヲ発シ、頭眩シ、其上ニ小便モ通ジカヌルナリ、此ノ如クニナル者ハ、食気消化セズシテ、始ノ凡例ニアル如ク、胃中濁ヲ苦シム、故ニ今ハ発黄セズ、凡、其勢欲作穀疸ナリ、コレ穀疸ノ陽明ニ位スルヲ知ルベキナリ、余常ニ云、穀疸、酒疸、女勞疸ノ三種ハ、世ノイヤシホ共ノ、ワツラフ病ナリ、愧ツベキ者ナリ、若輩ノ者共慎ムベシ、
 □疸而渴者、其疸難治、疸而不渴者、其疸可治、発於陰部、其人必嘔、発於陽部、其人振寒而発熱也、

コレノ条ハ、スベテ黄疸ノ難治ト、易治トヲ差別シ、陰陽表裏ヲ辨別シテ、示シタルナリ、サテ黄疸病ニシテ、渴スル者ハ、内熱和セズシテ、其飲ム所ノ水飲タマル故ニ、急ニ治シ難シ、熱去リ渴ヤムニ至レバ、治スルナリ、コレノ難治ヲ、今世ニ

古川醫傳 卷十 六 見可汗

テハ、不治ノ者ノヤウニ心得タレバ、難治トハ、急ニタヤスク治セヌヲ云、不治トハ、如何様ニシテモ愈ザルヲ云、又死トアリ、必死トアルハ、病ノ治セザルノミナラズ、トント生ノ切レタル者ヲ云、コレ發黃ノ症ハ、水湿痰汁ヨリ、醸ス者ナレバ、渴シテ水ヲ飲ム者ハ、水飲マヌク甚シク滯ル故ニ、難治ナリ、不渴者ハ、始ヨリ内熱甚シカラズシテ、治シ易キ者ナリ、又疸ニ陰陽ヲ分ツニ、部ノ字アルハ、部位ノナレバ、陰部トハ、裏分ノナリ、熱邪裏ニアリテ、湿痰汁ヲ醸シテ、發黃スル者ハ、熱ニヨリテ、水飲ムセテ、上行スル故ニ、上ニ衝テ嘔ヲ發ス、故ニ其人必嘔ト云リ、陽部トハ、表ノ部位ナリ、表分ニ發スル者ハ、湿熱表部ニ迫リテ、發黃スル故ニ、

振寒シテ而發熱スルナリ、嘔ハ裏分ノ病状、發熱振寒ハ、表分ノ病状ナルヲ明カナリ、又陰ニシテ、陽氣ノ衰エタル黄疸病ハ、表分へ發スルカナクシテ、只虛氣ノ上行スルヨリ、水飲ノツレテ嘔スル証モアリ、又陽部ノ氣道ノ盛ニナル者ハ、疸ヲ發スルニツレテ、表發セントシテ、振寒シテ發熱スル者モアリ、何レモニ陰陽表裏ハ、萬病トモ免レザル者ナレバ、何レノ篇ニテモ、コノ心得ヲ以テ見ルベシ、以上十一个条ハ凡例ナリ、

○穀疸之為病、寒熱不食、々即頭眩、心胸不安、久々發黃、茵陳蒿湯主之、

コレ始ノ凡例ニアリ、穀疸ノ証ヲ出セリ、跌陽ノ脈ノ緊而

数ナル証ヲ、コ、ニ照シテ見ルベシ、コ、ニ穀疸之為病、寒
 熱不食ト云タルハ、緊脈ノ寒ト、數脈ノ熱トニテ、消穀ト、食
 即為滿トニテ、寒熱相搏、食穀即眩、穀氣不消、胃中苦濁等ノ、
 凡例ヲ受ケタルナリ、コレ食スレバ、即チ頭眩スルガ故ニ、
 不食ナリ、胃中苦濁ガ故ニ、心胸不安ナリ、ソレヨリシテ、日
 ヲ經月ヲ踰テ、久々發黃スルハ、コレ穀疸ノ証ナリ、按スル
 ニ陽明病、瘧熱在裏、身必發黃ト、傷寒身黃如橘子色者ト、皆
 茵陳蒿湯ノ主タル証ナリ、コノ穀疸モ、胃中ニ預ル証ナレ
 バ、併セ考テ、其病情ヲ洞明スベシ、委クハ陽明篇ノ茵陳蒿
 湯ノ条ヲ見テ、察知スベシ、

○黃家、日晡所發熱、而反惡寒、膀胱急、小腹滿、身尽黃、額上黑、

足下熱、因作黑疸、其腹脹、如水狀、大便必黑、時澹、此女勞之病、
 非水也、腹滿者、難治、消菴散主之、

サテ發黃家ハ、穀疸ニテ見レバ、胃熱ノ變ナレバ、日晡所ニ
 發熱スルハ常ナリ、日晡所ノ發熱ハ、惡寒セザルガ相忘ナ
 ルニ、反テ惡寒ノアルハ、血分ノ變ヲ帶ビタル者ナリ、又下
 部ノ精氣乏シフシテ、水運行セサル故ニ、膀胱急、小腹滿セ
 リ、膀胱トアルハ、小腹ノ内ノ、牽急スルナリ、小腹トアルハ、
 膀胱ノ外側ナリ、コレ同シ部位ニテ、内外アルヲ知ルベシ、
 身尽ク黃キテ、額上黒ク、足下ノ熱スルハ、コレ血津液ヲ失
 フテ熱鬱スル所ヨリ、黄色ダシク深クナリテ、黒ヲ帶ビ、熱
 氣上逆シテ、瘀血上ニ鬱スル故ニ、第一ニ額上黒クナル、コ

レ精気乏フシテ、血ノ鬱蒸スル者ナリ、又小腹膀胱ニ變アレバ、下ニモ熱気アリテ、内ニ鬱スル故ニ、足下モ熱スルナリ、コレ上ニ血鬱シテ、額上黒ク、熱下ニ散漫シテ、足下熱シ、一身ノ黄ミタルモ、灸ダシク深クナリテ、因テ黒疸トナル、腹脹如水状トハ、真ノ水気病ニハアラザレバ、瘵熱ヨリ発黄シ、ソレヨリ黒疸トナルニツケテ、瘵熱マスキ迫リテ、瘵汁ヲ貯エテ、腹脹スル故ニ、如水状ナリ、サテ黒疸ノ証ハ、内外共ニ、瘵熱ノムセル者ナレバ、熱ノ為ニ大便モ必黒キナリ、コレ元秘戯ノ過度シタルヨリ、精気津液衰乏シ、血分滯リテ、瘵血トナリ、津液枯テ熱ヲ生ジ、瘵熱トナリテ、水気ヲ貯エ、水熱鬱蒸シテ、一身皆発黄シ、血分陰分マデモ、行ラザ

ル故ニ、日晡所ニ發熱シテ、反テ惡寒ヲナシ、下部ノ水血モ、和セズシテ、膀胱急、小腹滿トナリ、上部ニモ瘵血アリテ、額上甲ヲナル、額上黒キニ至レバ、下部マスキ行ラズ、熱ヲ生ジテ、足下熱シ、終ニ黒疸トナリテ、腹脹シテ、水気病ノ如クニナリ、内マデモ瘵熱ムセテ、大便黒キニ至ル者ハ、前症ノ穀疸ニ異ナリ、又後ニアル酒疸ニモアラズ、又水気ノ主トナル、水気病ニモアラズ、コレ俗ニ云陰虛火動ノ、腎虛ノ証ヨリシテ、此ノ如クニナリタルナリ、故ニ此、女勞之病、非水也ト云リ、コノ証、腹脹ノ者ニシテ、形ノ脹スルノミナラバ、輒スク治スベキ者ナレバ、内マデ堅ク実シテ滿スル者ハ、瘵熱水血ノ、十分内ニ凝結シタル者ナレバ、容易ニハ治セ

ズ故ニ難治ト云リ、コレ消痞散ノ主ル証ナリ、按スルニ消
石ハ、熱鬱シテ、水ノ凝結シタルヲ、碎ク物ナリ、硃石ハ、瘀熱
瘀血ヲ和シ、黄色ヲ醒ス功アリ、故ニコロニ味ヲ以テ、女勞
疸ノ黒疸ヲモ、解スルナリ、前ノ凡例ニアル、酒疸ヲ下シテ
後ニ、久々黒疸トナルモ、コロノ女勞ヨリ、黒疸トナルモ同ジ
トニシテ、皆瘀血瘀熱ノ所為ナリ、前篇ノ脚氣冲心ノ、硃石
湯ノ条ヲモ、併セ考フベシ、硃石ノ代リニ、鉄醬水ヲ用ル
モアリ、コロノ証モ、硃石ノ代リニ、鉄粉劑ヲ用テ功アリ、何レ
黄胖ヲ始メ、諸黄共ニ、鉄粉劑ヲ用ユルコトナリ、方
後ニ病随大小便去ト、小便正黄、大便正黒、是候也ト云モ、皆
是硃石鉄粉ノ功ナリ、

示弓車痛

○酒黄疸、心中懊懣、或热痛、梔子大黄湯主之、

コレ凡例ニ、酒疸ノ証ハ明カナリ、コロノ証心中懊懣トナリ、
或ハ心中热痛スル者ニシテ、梔子豉湯ノ証ノ上ニ、枳実大
黄ヲ加エタルヲ以テ、其部位ニ、水ト熱トノ、鬱蒸スル者ナ
リト知ルベシ、コロノ方、前ノ勞復病篇ノ、枳実梔子湯ニ、大黄
ヲ加エタル方ナレバ、大黄ノ分量少シク異ナリ、前ニ云如
ク、酒疸ハ、上焦心中、穀疸ハ、中焦胃中、女勞疸ハ、下焦膀胱ト、
上中下ノ部位ヲ辨別セリ、前後併セ考フベシ、

○諸病黄家、但利其小便、假令脉浮、當以汗解之、宜桂枝加黄
芪湯主之、

サテコロノ条ハ、一種表証ノ發黄ヲ示シタリ、諸病黄家トハ、

凡例ニアル、一切邪氣ノ発黄、又三種ノ黄疸等ニテモ、瘧汁
 湿熱内ニ鬱蒸シテ、発スル病故ニ、當リマエ小便ヲ利シテ、
 解スベキ者ナリ、然ルニコノ証ハ、表証故ニ、汗ヲ以テ解ス
 ベキ者ナリ、故ニ當以汗解之ト云リ、コレ桂枝加黄芩湯ノ
 ノ、ル者ナリ、然レ凡表和シテ後、轉寢スルカ、又ハ裏証ノ
 黄疸ナランモ計リ難シ、且又桂枝加黄芩湯ニ限ラス、表部
 ノ発黄ヲ解スル方ヲ、廣クカケテ宜ト云、又コノ方ニ決定
 シテ、治スルヲモ示シテ、主之ト云リ、前篇ノ黄汗病ヲモ、併
 セ考フベシ、

○諸黄、宜猪膏髮煎、

コノ方ハ未ダ試ミザルガ故ニ、其功能ヲ知ラズ、且諸黄ト

バカリニテハ、アマリ廣スギテ、目當ツカズ、故ニ解ノ入ル
 ベキヤウナシ、後人ニ遺付シテ、高論ヲ俟ノミ、

○黄疸病、茵陳五苓散主之、

コレ凡例ニアル、脉沈、渴欲飲水、小便不利ノ発黄ヲ、併セ見
 ルベシ、一通り五苓散ノ症ニシテ、発黄スル者ノ様ニバカ
 リ心得テハ、大ニ浅キナリ、コノ証ハ瘧汁主トナリテ、一
 身尽ク黄ミタル所ノ、水飲瘧汁ヲサバク為ニ、茵陳蒿一味
 ガ、五苓散ヨリ倍セリ、五苓散ハ水外襲シテ、胃中ニメグラ
 ガルヲノミ目當トセリ、故ニ五苓散ノ分量少シ、時ニ又五
 苓散加茵陳ノ証モアリ、コレハ発黄モ、五苓散ノ証モ、等分
 ニ病ム者ナリ、一病人年二十七、八、窄中ヲ出テ、卧病セリ、コ

レ獄舎ヨリ、少ク熱ヲ帶テ、出テ後、凡ソ二十日計ヲ経テ、医
両三人ヲ轉ジタルニ、日々危篤ニ及ンデ、余ヲ招リ、余コレ
ヲ診スルニ、一身面目悉ク発黄シ、一身手足俱ニ厥シテ、熱
ノアル処ナシ、脈洪ニシテ、少シク革ヲ帶ビタリ、トクト按
スルニ、一向ニカナシ、小便少フシテ、不大便ナリ、前医大柴
胡加石羔ヲ、三日計リ用ヒタレ、凡、大便通セズ、食気其外飲
物モ、冷物ニアラザレバ、咽ニ下ラズ、又冷物冷水咽ニ下リ
テ、暫クアリテ、尽ク吐ス、故ニ絶食スル、己ニ十日バカ
リ、一身疲労シテ、起坐モナリ難シ、依テ自分モ覚悟シテ、死
ヲ待ツト云リ、余コレヲ察スルニ、瘵中ニ在テ、十分湿気ヲ
含ミ、其上外邪ヲ帶テ、邪熱ト瘵汁ト、鬱蒸シテ、発黄シ、胃中

ノ水液、尽ク外行シテ、一身ニ廻リテ、胃中ノ津液乾燥シテ
煩渴シ、冷水其外冷物ヲ喫ストイヘ、凡、胃中以上ニモ、水飲
上行シテ吐ス、惣身厥冷シテ、水気外ニ集リテ、発黄スル者
ナリ、其疲労ハ、真武四逆ノ証ニテモ、アラニカト思フバカ
リナルニ、前医、大柴胡加石羔ヲ用ヒタルハ、大ニ誤リナレ
凡、夫ニテ、寢逆モナク、以上ノ如クナル病状ナリ、余コ、ニ
於テ、水逆ノ五苓散ノ意ニテ、茵陳人參ヲ加テ用ヒタルニ、
明日ニ至テ、一身温ナルヲ覺エテ、小便モ倍シテ通ジタリ、
又明日ニ至テ、大便快通ヲ得テ、夫ヨリ渴モヤミ、食物モ咽
ニ下ルヲ得テ、凡ソ三十日バカリニシテ、故ニ復シタリ、
始ニ思フニ、五苓散加茵陳人參ニテ、水逆ト黄疸トヲ治シ

テ、厥冷ハ、真武湯加甘艸干姜ナラント、思案シタル処ニ、思
ノ外一方ニテ、厥冷ヨリ先ニ復シテ、全快ニ及ビタリ、コレ
胃中ノ水液、一身ヘマハリテ、瘀汁ト共ニ、表外ニ滯リテ、ソ
レガ為ニ厥冷ヲナシタル者ナレバ、津液胃中ニ行ルヲ
得テ、陽氣一身ニ宣ビタルナリ、コノ証實ニ危篤ニシテ、諸
医死ヲ告テ退キシニ、コノ五苓散加茵陳人参ニテ治シタ
ルヲ、實ニ奇ナリト云ベシ、

○黄疸、腹滿、小便不利而赤、自汗出、此為表和裏實、當下之、宜
大黃消石湯、

コノ証ハ、大実ノ黄疸ナリ、サテ実熱内ニアリテ、瘀汁ト鬱
蒸シテ、腹滿ヲナシ、内熱甚シク、小便不利シテ、其色赤ク、其

熱ノ餘焰ニテ、内ノ津液ヲ推シ出ス、故ニ自汗出ナリ、コレ
自汗ノ出ルハ、裏熱ノアマリノ、表ニ及ブ者ニシテ、表ニ衰
ナシ、故ニ表和ト云リ、腹滿、小便不利而赤ハ、裏實ノ証ナリ、
故ニ當下之ト云リ、下シテ後、裏實和シテ、外ニ衰ヲ生ゼレ
モ計リ難シ、故ニ宜トバカリニテ、主之トハ云ズ、黃蘗ハ、血
鬱ノ發黃ヲ和ス、太陽上篇ノ、梔子蘗皮湯ノ条ニ、傷寒身黃
發熱スル者トアリ、コレハ胸中ニ血熱鬱シテ、黃ヲ發シ、發
熱スル者ナリ、コノ黄疸ノ篇ニモ入テ、其病情ヲ察スルニ
大ニ便ナリ、委クハ太陽上篇ノ梔子蘗皮湯ノ条ト、併セ考
フベシ、

○黄疸病、小便色不復、欲自利、腹滿而喘、不可除熱、々除必噦、

噦者、小半夏湯主之。

コレ前条ノ小便不利而赤ヲ受ケテ、黄疸病ニシテ、小便ノ色ノ衰ゼザル者ヲ出セリ、サテ黄疸病、小便色不衰トアルヲ見ルニ、黄疸病ノ可ナレバ、何レ熱ノアルニ相違ハナケレバ、小便ノ色ノ衰ゼザルハ、裏熱ノナキ者ナリ、欲自利ハ、上逆ノナキヲ見セタルナリ、然レバ前条ト同ク、腹滿アリテ、喘ヲナス、コノ証、黄疸病故ニ、表ニアラハレタル熱ハアレバ、裏実ノ熱ニアラザルナリ、故ニ熱ヲ除クベカラズト云リ、若サツ、パリト熱ヲ除クハ、腹滿而喘スル所ノ水飲、胸中ニタマリテ、気ノ脱スルニツレテ、噦ヲ発スルナリ、故ニ熱除必噦ト云リ、コノ噦ハ、橘皮竹茹湯ノ類、又甘草干姜

湯ノ類、小承気湯ナドノカ、ル者トハ、大ニ相違シテ、タツ水飲胸中ニ滞在シテスル者ナレバ、小半夏湯ヲ以テ主トス、余毒々試ルニ、コノ噦ハ、外ノ噦トハ異ニシテ、小半夏湯ニテ、大ニ快クナル者ナリ、コノ条ハ、嘔吐噦病篇ニアルベキ様ニ思ハルレバ、黄疸ノ熱ヲ除カザレバ、コノ噦ハナキ者ナレバ、コノニ入タルナリ、且前条ト、病状同クシテ、虚実ノ異ナルヲ示シタルナリ、

○諸黄、腹痛而呕者、宜柴胡湯。

コノ条ト次ノ条トハ、前二条ノ腹滿ノ証ニ、虚実ノ差別アルヲ受テ、黄疸ニレテ、腹痛スル者ニ、虚実ヲ示シタルナリ、サテ諸黄トアリテ、一切何レノ黄疸ニテモ、胸腹ニ迫リ

アリテ、嘔シテ上逆ノ勢ニヨリテ、下ヲ引上テ、腹痛スル者ハ、コレ太陽下篇ノ、邪高痛下、故使嘔也ト云、小柴胡湯ノカ、ル条ト同フシテ、黄疸ノ証ナリ、コレ腹痛ハ客ニシテ、嘔ノ主タル証ナリ、時ニ柴胡湯トバカリアリテ、大小ノ字ナキハ、是ノ証ニシテ嘔ノ上ニ腹痛スル、実証ノ者モアレバナリ、コレ諸黄トアル中ニ、虚実種々アレバ、小柴胡湯ノ邪高痛下ノ証ニ、カタヨリ難シ、コレラノ処ヨク工夫スベシ、

○男子黄、小便自利、當与小建中湯、

コレ前条ト、腹痛ノ主客アルヲハ、己ニ経篇ニ説リ、故ニコレ処ニ腹痛ノヲハ云ザレバ、上ノ条トノ掛合ニテ、腹痛

アルヲハ知レテアルナリ、サテコレニ男子黄トアルハ、若婦人ナラバ、月経ノ衰ニテ、発黄セシモ計リ難キ故ナリ、前ノ血痺虚劳篇ニモ、男子ノ字アリ、皆婦人月経ノ衰ニアラズシテ、血分ニ事ヲ生ジタルヲ、含テ云タルナリ、故ニ婦人トテモ、月経ノ衰ニヨラザル、血分ノ証ハ、コレ男子トアルモ同ジトナリ、小便自利トアルハ、凡シ虚実陰陽トモニ、上逆上行ナクシテ、内ニ下陷スル病状ハ、皆小便ノ日夕通利スル者ナリ、コレハ前条ノ腹痛而嘔者ヲ受テ、腹痛シテ小便自利スル者ヲ出セリ、同ジ発黄ノ腹痛ニ、嘔ト小便自利トノ差別ニテ、柴胡湯ノ証ト、小建中湯ノ証トヲ辨明シテ、太陽下篇ノ両方ノ証ヲ、再ビ黄疸病ニテ示シタリ、故ニコレ

ノ二个条ハ、經篇ト同ジナリ、併セ考ラベシ、コレ上ノ二
个条ノ腹滿ノ發黄ニ、虚実ノアルヲ受タル二个条ナリ、

○苽蒂湯、治諸黄、

坊本ニハ、コノ条ヨリ附方ニシタリ、書キ法ハ、附方ノ例ナ
レ、他書ノ名ヲ奉ゲザレハ、本条ニシテコ、ニ列子タリ、
前ノ中風歷節病篇ノ、候氏黑散、風引湯、防己地黄湯、頭風摩
散ノ文例ト、同ジケレバ、其意ヲ以テ察知スベシ、サテコノ
苽蒂湯ハ、己ニ痊湿喝篇ニ、夏月傷冷水、々行皮水所致也、ト
アルヲ見ルニ、コ、ニハ諸黄トバカリアレ、水気皮中ヲ
行テ、熱ト蒸合シテ、發黄スル証ヲ治スルナリ、故ニコノ理
ヲ以テ苽蒂湯ノ主タル所ヲ知ルベシ、

△附方、千金麻黄醇酒湯、治黄疸、

コノ方ハ、虚寒ノ黄疸ニテ、水気ノ行ラザル証ナランカ、余
未ダ試ミザルガ故ニ、其証ノ適當ヲ知ラズ、タ、コ、ニ奉
テ坊本ニ從フノミ、方後ニ冬月、用酒、春月、用水、煮之トアリ、
コレ春月ニ水ヲ用ルニ於テハ、醇酒湯ト云方名ニ當ラズ、
故ニ削リタルナリ、覽者其意ヲ知レ、
以上黄疸病、通計二十三个条、変化ノ種々ヲ示シ、黄疸病ノ
轉変マデヲ辨ゼリ、

古訓醫傳
卷十八

示
月
車
非

古訓醫傳卷十八

